

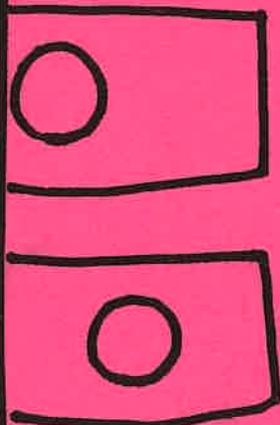
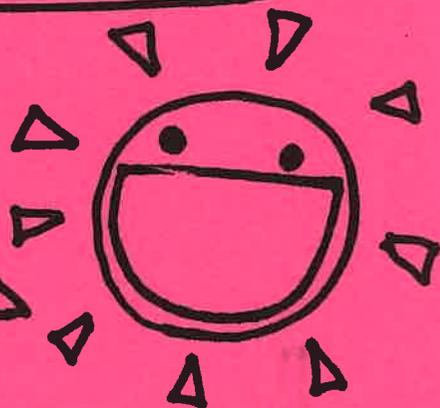
2008年 8月7日 ~ 21日



# ACEFスタディーツアー



## 第35回





第35回  
ACEF STUDY TOUR 報告書

◆◇目次◇◆

**Part1.Introduction**

- ・ バングラデシュ地図
- ・ バングラデシュ概要
- ・ ACEF・BDPについて

**Part2.スタディーツアー概要**

- ・ 参加者名簿
- ・ スケジュール

**Part3.メンバー・スタッフ紹介**

- ・ Aチームメンバー、ジャマルプール地区・ボクシガンジ地区 staff 紹介
  - ・ Bチームメンバー、ネトロコナ地区 staff 紹介
  - ・ Cチームメンバー、ポリシャル地区 staff 紹介
    - ・ ダッカ地区・プーバイル地区 staff 紹介

**Part4.バングラデシュでの二週間**

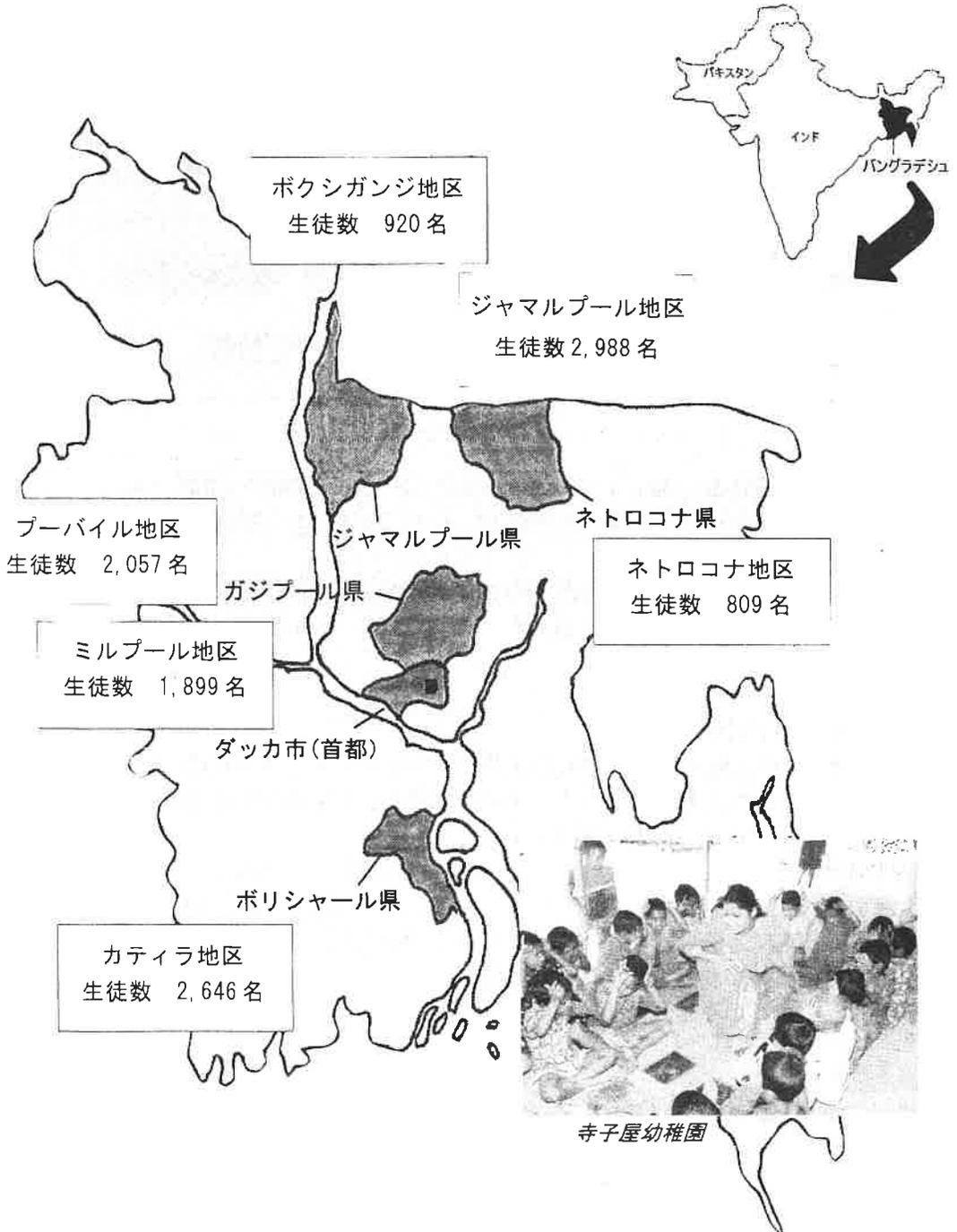
- ・ プーバイルでの生活1（8月7日～8月10日）
  - ・ Aチームの一週間
  - ・ Bチームの一週間
  - ・ Cチームの一週間
- ・ プーバイルでの生活2（8月18日～8月20日）

**Part5.感想文**

- ・ メンバーの感想文

編集委員：大和由祈、上原あゆみ、長澤ルツ子、畑山せいら、村苑子、山本美紗

# BANGLADESH MAP



## 《バングラデシュ概要》

### ■基本データ

国名	バングラデシュ人民共和国
首都	ダッカ
国土面積	14万4000k m <sup>2</sup> (北海道の約2倍)
人口	1億4049万人(2005)
民族	ベンガル人
公用語	ベンガル語
宗教	約9割がイスラム教。他にヒンドゥー教・仏教・キリスト教
通貨	タカ(1ドル=68.94タカ/2007平均値)
実質GDP	724億ドル(世界57位)
一人当たりGDP	455ドル(世界156位)
経済成長率	6.5%(2007年度)、6.4%(過去五年平均)
気候	熱帯モンスーン気候 (4~9月の雨季と10~3月の乾季が特徴)
年間降雨量	2300mm

### ■地形概観

ベンガル湾の最奥部に面し、インドとビルマに挟まれた地域に位置する。ガンジス川・ブラマプトラ川・メグナ川によって形成された世界最大のデルタ地帯、ベンガル低地が特徴。国土のほとんどがこのデルタ地帯のため、水害が多い。特に雨季には国土の3分の1が水に覆われ、洪水が繰り返され、約10年に一度の周期で大洪水が襲う。

### ■食文化

「米と魚の国」と称される。主食は米で、ベンガル地方の古来の米の種は4000~6000種にも及ぶと言われている。また主食だけでなく、甘味の方法などにも取り入れられており、バングラデシュの米文化の深さが伺える。魚は国魚のイリッシュヤルイ(鯉)などの淡水魚が中心。骨が多く、日本ではあまり親しまれていないが、なかなか美味である。しかし魚に関しては、近年の農業・化学肥料導入による収穫量減少やそれに伴う値段高騰等の問題がある。また果物も種類が豊富で、特に雨季の時期にはジャックフルーツやマンゴー、ライチなどが食べごろを迎える。

### ■主要産業

縫製品産業、農業、水産業、ジュート加工業などがあげられる。農作物としては米・小麦・茶・ジュート・サトウキビなどが挙げられるが、作付面積の約70%は米である。またジュート加工業は、近年の需要の減少により衰退気味である。

## ACEF と BDP について

**ACEF**(アジアキリスト教教育基金)とは、日本の学校、幼稚園、教会、団体、有志などの協力によって、バングラデシュにあるキリスト教系 NGO である BDP と共に、バングラデシュに寺子屋(小規模学校、初等教育)を贈る運動を行っている NPO 法人である。1990 年に設立、2004 年に特定非営利活動法人(NPO 法人)として認められた。また、教育支援だけでなく、アジア諸問題に取り組む青年の育成も目指しており、年に2回のスタディーツアーや、ACEF セミナーを実施している。

**BDP**(Basic development partners)とは、バングラデシュで学校に行けず、街で物売りをしている子供たちが働きながらも通える寺子屋学校を開き、一人でも多くの子供たちに教育の機会を与えることを目的としたキリスト教系 NGO 団体である。1990 年に DR. ミナ・マナカール女史により SEP(Sunflower Education Program)として寺子屋運動が始まる。その後、この運動はプーパイル・カティラ・ジャマルプール・ボクシガンジ・ネトロコナ地区へと広がっていき、1999 年に政府から正式に NGO としての認可を受ける。このとき名称を BDP へと改名。現在は6地域に73校の小学校と2校の職業訓練校がある。

## 第35回(2008夏)ACEFスタディーツアー参加者

### Aチーム(ジャマルプール地区・ボクシガンジ地区)

1	山口 旬	YAMAGUCHI Jun	ヤマグチ ジュン	横須賀学院小学校教員	日本キリスト教団靈南坂教会
2	赤岩 英里香	AKAIWA Erika	アカイワ エリカ	共愛学園高等学校1年	日本キリスト教団甘楽教会
3	都丸 紗椰	TOMARU Saya	トマル サヤ	共愛学園高等学校2年	
4	牧山 美穂	MAKIYAMA Miho	マキヤマ ミホ	横須賀学院高校3年	大津カトリック教会
5	村 苑子	MURA Sonoko	ムラ ソノコ	お茶の水女子大学1年	
6	池田 早希	IKEDA Saki	イケダ サキ	青山学院女子短大英文学科2年	
7	大和 由祈	YAMATO Yuki	ヤマト ユウキ	国際基督教大学教養学部2年	日本福音ルーテル大岡山教会
8	菅 悠介	SUGA Yusuke	スガ ユウスケ	明星大学理工学部4年	
9	高崎 和子	TAKASAKI Kazuko	タカサキ カズコ	ACEFバザー委員長	日本キリスト教団所沢みくに教会

### Bチーム(ネトロコナ地区)

1	中川 英明	NAKAGAWA Hideaki	ナカガワ ヒデアキ	ACEF事務局長	国際基督教大学教会
2	薊 千夏	AZAMI Chinatsu	アザミ チナツ	共愛学園高等学校3年	
3	水内 健太郎	MIZUUCHI Kentaro	ミズウチ ケンタロウ	横須賀学院高校3年	日本ホーレス教団茅ヶ崎教会
4	山本 美紗	YAMAMOTO Misa	ヤマモト ミサ	聖母大学看護学部1年	
5	大山 美菜	OYAMA Mina	オオヤマ ミナ	東京女子大学 現代文化学部地域文化学科1年	
6	君島 小春	KIMIJIMA Koharu	キミジマ コハル	青山学院女子短大英文学科2年	
7	長澤 ルツ子	NAGASAWA Rutsuko	ナガサワ ルツコ	国際基督教大学教養学部2年	日本福音キリスト教会連合 佐倉福音キリスト教会
8	目黒 元子	MEGURO Motoko	メグロ モトコ	明治学院大学国際学部国際学科 2年	JECA栗橋キリスト教会
9	島宗 浩子	SHIMAMUNE Hiroko	シムムネ ヒロコ	柿ノ木坂教会ベテル幼稚園教諭	日本キリスト教団柿ノ木坂教会

### Cチーム(ポリシャル地区)

1	井上 儀子	INOUE Noriko	イノウエ ノリコ	ACEFスタッフ	日本キリスト教団浦和東教会
2	新田 愛菜	NITTA Aina	ニッタ アイナ	山梨英和高校1年	
3	清水 理沙	SHIMIZU Risa	シミアリサ	共愛学園高等学校2年	
4	藤井 ハンナ	FUJII Hanna	フジイ ハンナ	横須賀学院高校3年	日本ホーレス教団茅ヶ崎教会
5	上原 あゆみ	UEHARA Ayumi	ウエハラ アユミ	聖母大学看護学部1年	
6	畑山 せいら	HATAYAMA Seira	ハタヤマ セイラ	青山学院女子短大教養学科2年	
7	鈴木 真喜子	SUZUKI Makiko	スズキ マキコ	首都大学東京システムデザイン学部3年	Hope Church
8	深山 信嗣	MIYAMA Nobutsugu	ミヤマ ノブツグ	国際基督教大学教養学部4年	日本キリスト教団国分寺南教会
9	江間 紗綾香	EMA Sayaka	エマ サヤカ	遺愛女子中学高等学校教諭	日本キリスト教団教務教師
10	峯岸 伸幸	MINEGISHI Nobuyuki	ミネギシ ノブユキ	共愛学園高等学校教員	日本キリスト教団高崎教会

# 35<sup>th</sup> STUDY TOUR Schedule

Date	Time	Activities		
8/7 (Thu)	am			
	pm	成田空港発		
8/8 (Fri)	am	ダッカ着、オリエンテーション		
	pm	Arongでshopping		
8/9 (Sat)	am	ラルクティ、モニプール、カジパラschool訪問(グループ別)		
	pm	free time		
8/10 (Sun)	am	礼拝出席、ハイスクール、職業訓練学校訪問		
	pm	ボートトリップ、マザーテレサの家		
グループ別行動		A	B	C
8/11 (Mon)	am	移動	移動	移動
	pm	ジャマルプール村散策	オリエンテーション、 ネトロコナ村散策	オリエンテーション、家庭訪問
8/12 (Tue)	am	バッチャラschool訪問	学校訪問	学校訪問
	pm	free time	ゾフラさん宅訪問、散歩	池に入る
8/13 (Wed)	am	ダブネシヨルschool訪問	ベタティジェレパラschool訪問	ノーカ(小船)に乗る
	pm	モクレスさん宅、奥さん宅訪問	散歩、空の下でお茶	シャチムリアschool訪問、ニコ ティンさんのお兄さん宅訪問
8/14 (Thu)	am	ヘモント劇場	学校訪問	カティラ、バイサ、 ランデルバルschool訪問
	pm	community discussion、 バシエットさんの奥さん宅訪問	魚釣り、散歩	昼寝
8/15 (Fri) 国民の休日	am	ボートトリップ	Long free time	ボートトリップ、 イーストバクダットschool訪問
	pm	ホビさん宅訪問、 サリー・メンディー	ボートトリップ	川遊び、teacher's meeting
8/16 (Sat)	am	ボクンガンジへ移動、学校訪問	シムラティschool訪問	カティラschool訪問
	pm	インドの国境を見る	パトリーschool訪問	singing party
8/17 (Sun)	am	ガロ族の村訪問、礼拝に出席	サリー・メンディー	礼拝、バザール、 江間ちゃん誕生日party
	pm	ジャマルプールへ移動、 ヘモント劇場	散歩	サリー・メンディー
8/18 (Mon)	am	プーバイルへ出発		
	pm	free time		
8/19 (Tue)	am	free time、バザールでshopping		
	pm	工場見学、Cultural Show		
8/20 (Wed)	am	Wrap-up discussion		
	pm	free time、閉会礼拝、ダッカ出発		
8/21 (Thu)	am	香港空港経由		
	pm	成田空港着		

英語の通訳はまかせたっ  
日本の女の子に「モタ」とってはダメと  
スタッフに教えてあげていた

ゆうま

Aチームのお母さん。  
パングラに関する  
知識と  
パングラ愛は  
ヒカイチ

マンゴーと言えば山じゃん。  
山じゃんといえばマンゴー。  
パングラのマンゴーを  
食べつくした  
小学校教師

山じゃん

和子まん

美帆

パングラのとある慣習に最後まで  
なじめなかった陸上娘

早希

シャボン玉で現地の子達の人気者。  
一度ツボにハマると笑い続ける  
讃岐っ子

天然そうに見えて  
実はしっかりした  
意見を持っている  
群馬っ子

マヤ

# A TEAM - JAPANESE -

Aチームで一番落ち着いている・・・

と思えば意外と  
ぬけてる！？  
パングラが初☆  
海外だった

そのこ

今回のST最年少。  
再びパングラに来ることを  
誓った

エリカ

ボールを蹴れば  
子どもたちは途端に笑顔に  
現地人とすぐに  
「ボンドゥー」！

菅ちゃん

奥さんの  
ホンジョナ

静かな愛妻家と思いきや  
彼のDanceは面白い!



バシエツト

モタレフ

カレーのお替りは  
彼にオーケー!  
ジャマルの  
carewoker



最初は寡黙だったけど  
徐々に打ち解けてきた  
ジャマルの新人

ホビ



“モタ”を誇りに思う  
ジャマルのorganizer!

モクレス  
(通称 モクちゃん)

モクちゃんと  
モタ仲間♪  
ボクシガンジの  
organizer

マスツド



夜に田んぼに飛び交う蛍の群れは  
まるでイルミネーションのよう。  
遊びに来た子どもたちを  
お隣の大家さんが「オイケサ!」  
と追い払うのは、  
庭があるジャマルのofficeならでは。

JAMALPUR -STAFF-



ボクシガンジの  
super visor!  
フアラハット

サミュール

ボクシガンジのcarewoker  
闇夜に蚊帳を作ってくれた  
優しいスタッフ

インドとの国境に程近い  
山岳地帯。  
インド象が目撃される  
こともあるという。  
少数民族が口族の村が  
ある。



BOXIGONJ -STAFF-

# B チームメンバー紹介



最強

Bチーム



中川さん: Bチームの頼れるリーダーであり、  
人生の先輩。通称:ダダ(お兄さん)どんな問題にも  
冷静に対処してくれます。



パル: 物をよく無くしちゃうっかり者の一面もw  
でも、優しくて、みんなから愛されるキャラクター。

ちな: 一見何も考えてないように見えるが、  
実はしっかり者。Bチーム唯一の華の  
女子高生で、「〜っすよ」が口癖♪

健太郎: Bチームの弟的存在。  
どこでも現地人になっちゃうベンガルボーイ!





ムーンバット!!

もってー:いつも元気でパワフルな  
末っ子wムードメーカーでいつも  
みんなを盛り上げてくれました。  
おでん体操はお手のものw



みさ:いつも明るく元気でお茶目♪  
笑いの引き出したくさん持ってます



ひろこさん:Bチームのお姉さんの存在で  
ディディ(お姉さん)と慕われてます♪  
まさにアジアンビューティー。サロワカの着こなして  
ディディの右にでるものはいないw

カタカタ



みな:いつも穏やかで落ち着いていて、  
気配り上手。どんなこともきちっとこなす  
しっかり者♪



るっちゃん:癒し系。ほわほわしてるけど、  
実は頼れるしっかり者。ネトロコナでは  
ベンガルシンガー♪



ミナさん:とても可愛いらしい  
アナルーさんの奥さん。  
いつも私たちのために  
ご飯を作ってくれました。

アナルーさん:笑顔が素敵な優しい  
ジェントルマン。細かいところまで  
色々と気を配ってくれました。



ソフアさん:一見怖そうに見えるが、  
実はとっても優しくて  
世話好きなお母さん♪



more?  
more?

ハビブさん:一見怖そうに見えるが  
実はおちやめ♪more?more?と  
言って食べきれないくらいご飯を  
よそおうとしますw



ヤッシンさん:頼れるスーパー  
バイザー。優しい笑顔で  
私たちを見守ってくれました。



井上 儀子  
 バニカル語バカバカ  
 頼める存在!  
 万が一バカバカ  
 のバカバカ  
 クス♡



峯岸 伸寿  
 音楽が上手! 井上さんのバカバカ  
 目覚めた身月バカバカ  
 常ニバカバカを撮っています。



江間 知綾香  
 シカリ者の先生!  
 バカバカをバカバカ  
 迎えるバカバカ...  
 バカバカ者バカバカ♡



深山 信嗣  
 英語バカバカバカバカ!  
 通訳本場にバカバカ  
 手した  
 唯一バカバカを撮っています  
 バカバカ。

# C. KATHIRA



鈴木 真奈子  
 お姉さんバカバカバカバカ  
 しいバカバカ!  
 バカバカバカバカバカバカ  
 バカバカバカバカ♡



畑山 正行  
 バカバカバカ!  
 バカバカ、バカバカバカバカ  
 楽しいバカバカ。  
 素直バカバカバカバカ!  
 禁断の恋バカバカ♡



# MEMBER



上原 あゆみ  
 一見可愛い女の子バカバカ!  
 案外バカバカ!  
 バカバカバカバカバカバカ  
 バカバカバカバカ♡



藤井 ハナ  
 バカバカ♡  
 空気が読める元気っ子!  
 バカバカバカバカバカバカ  
 バカバカ。バカバカバカバカ  
 バカバカバカバカバカバカ...



清水 理紗  
 バカバカバカバカバカバカ  
 バカバカバカバカバカバカ!  
 準備万端バカバカバカバカ  
 大流バカバカバカバカバカ♡



新田 優菜  
 大人バカバカ、バカバカバカ  
 バカバカバカバカバカバカ!  
 バカバカBoysバカバカ  
 バカバカバカバカ♡

# 紹介します。BDPカテヲSTAFF

**ビッパルさん**  
東国原知事  
事に激しい!!  
ちきちや「武勇伝」な  
どのギョウをこなすおれおし  
た。奥さんは先生をやっている  
おびきびした女ハ性々



**ダニエルさん**  
スピーバザ、<sup>の</sup>外に死ん  
どいたり「なちゅ」(クス)言っ  
たり、ダニエルちゃんと呼ぶ  
れる人、会者、<sup>の</sup>家内(ケ  
ナレ)とラララ愛慕者

**アグロスさん**  
インテリで厳格なイメージ  
のある彼は、実は恋愛相談  
にものてくる優しい人々  
英語が半ば、実は歌がた  
いします

BDPではな  
しセナ行  
の大学生の  
**ヒビさん**  
お伊伝いさん  
イケニでカガ  
しい♡ハタ王女様  
ア。食事中を北(チ)お  
どいはんついで来る

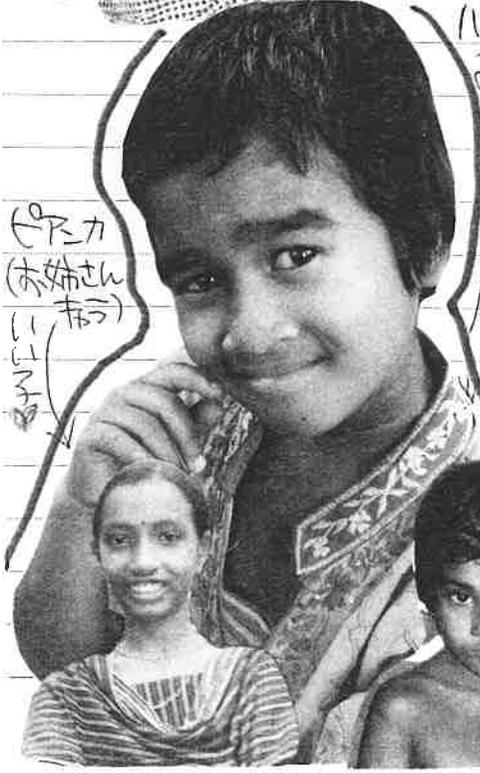


**ビッダさん**  
歌や踊りが女子  
でいはいお喜  
てくれた  
なにかに孫がいる  
おじいちゃんめ、<sup>の</sup>一糸者に  
おどろかしました



## \*カテヲの子供達\* +カテヲの子供達+

ハナをばあとしたC7-4の  
みんがアキに夢中! 弟  
ケル、アキの相方の  
シトにも、みんな  
ア-リ  
ンゾ。



(ア-カ  
お姉さん  
お兄さん)

12  
超が  
し

# BOP Staff

## ~ Dhaka

## ~ Pubail



Albert (アルバート) さん：  
BDP の頼れるボス。  
Question を投げかけるのが好き。  
ジョーク炸裂でユニークな一面も



Hemanta (ヘモント) さん：  
ダッカのマネージャー。  
歌でその場を盛り上げるヘモントさん。  
A チームがベンガル & 日本の音楽で溢れていたのは間違いなく彼のおかげです♪



ニキルさん：  
ダッカのドライバー。  
寝起きが超 Cute で、笑顔もおちやめ♡  
柔らかな雰囲気を持っていて、  
まさに癒し系。



*Dhonnobad !!!!*

ニコディモさん：  
ミルプール地区のスーパーバイザー  
C チームの行きに C チームをガイド &  
守ってくれた頼りがいのある人☆  
バスの中ではバナナや果物を買って  
みんなに分けてくれました。



オシムさん：  
ダッカのドライバー。  
運転はバングラ流だけど、  
私たちを守ってくれた  
大切な大切なボンドウーです



ソンチョイさん：  
ダッカの経理担当。  
彼の財務面での働きがあるから  
BDP の活動も、私たちの ST も成り立っているのだと思います。



ファルクさん：  
ダッカのマネージャー。  
今年の5月に来日！おしゃべりが大好き。  
また来日してくださいねー

Dico(ディコ)さん:

BDPのIT担当。

ギターやホイパがうまい!

エンターテイナーでいつも

みんなを楽しませてくれました



Prokas (プロカッシュ) さん:

プーバイルの職業訓練校配線担当。

ダッカからプーバイルに単身赴任中

歌が始まれば、もうノリノリです!

Saiful (サイフル) さん:

プーバイルの職業訓練校コンピュータ担当。

家族で新たなビジネスを始めたため、今年でお別れ。

*Thank you for everything!!*



Shomil (ショミル) さん:

プーバイルの職業訓練校機械担当。

タンブラーの達人。彼のタンブラーに  
合わせて歌って踊れば身も心もベンガル人♪



Arif (アリ) さん:

プーバイルのスタッフ。

彼の「ご飯ですよー」の一言は私たちみんなを幸せに。

けんちゃんとそっくりさん。



Anbros (アンブロス) さん:

ダッカの総務担当。

厳格な雰囲気漂うインテリなお方☆

最後のバスでは歌も歌ってくれました

普通に優しい☆



Rahaj (ラハジ) さん:

プーバイルのスーパーバイザー。

ちょっとシャイだけど、話すのが好きです。

歌も好きです。バイクだって大好きです。



Omor (オモル) さん:

プーバイルのスーパーバイザー。

彼の口から出る日本語は

「暑いダラダラー」「筋肉ムキムキー」

そんなオモルさん、目指せ「日本語ペラペラー」!



深夜1:30（現地時間）バングラデシュ着。  
空港を出てバスに乗る前、子どもが2・3人寄ってきた。  
何が言いながら手を突き出してまわりついてくる。

物乞いだ。話には聞いていた、そういう人達がいることは知っていた。  
今、その事実を身をもって感じている。

「何があっても立ち止まらないで付いてきてください」と言われていた私達は、戸惑いながらも彼らを見殺しにしてバスに向かう。  
それでも子どもは寄って来る。

それをBDPスタッフが何事かを怒鳴ったり引き離したりして追い払う。

バングラについてすぐのこの衝撃的な出来事に、ショックで泣いてしまう人もいた。そしてショックとともに感じる、これからの生活への一抹の不安。

空港を降りて肌に感じたむっとする湿気とこの出来事に、異国の地に来たことを強く印象づけられた。

バスの外には夜のダッカの街が流れる。

深夜だというのに、外に椅子を出して座っている人、歩いている人が結構いる。最初は疑問だったが、その理由はバングラで2週間暮らすうちに明らかになった。まっきの出来事が胸にわだかまりを残していたが、初めて目にする街の風景に興味を奪われる。色々な看板や人々、建物。でこぼこ道に揺られながらofficeへ。

初日から色々な体験をしてスタディーツアーは始まった。



成田空港にて。  
まだ見ぬバングラでの生活への不安と期待をメンバー同士で喋りあっていた。



初めて飲んだチャー



蚊帳の中で初めて眠る

8月8日(金)

天気：晴れ



↑フォービルの施設  
ここでシェアリングを  
歌ったんですよ

〈開会礼拝-オリエンテーション〉

いよいよバンガラでの生活が本格的にスタート!  
開会礼拝ではのりこエムから「どの「はこ」にも感謝  
する」という話を聞きました。

その後のオリエンテーションではAlbertエムから  
バンガラの現状を、ヘモンエムからBDPの活動  
について伺いました。

〈ダッカで買い物〉

午後にはダッカに買い物に  
出かけました。車にリキシャに  
バスに歩行者に…全ての  
人が入り交じる道路各に皆  
あせむ…日本との違いを



↑ダッカの街

感じたことでした。買い物は、女の子は「ワフワミュージック」、男の子は「レンガ」を  
購入しました。どちらもバンガラの民族衣装です。2件目のアロンには最近



おしゃべり、ゆうき、みは

出来たレポートのようになるところで、ここには皆お土産を  
見購入しました。

〈シェアリング〉

この日の主な話題はダッカで見つけた物乞いの人たちに  
ついて。皆色々にこぼれを感じておりました。28人での  
シェアリングは時間もかかりましたが、色々に意見を聞ける  
のでそれぞれ楽しいです。

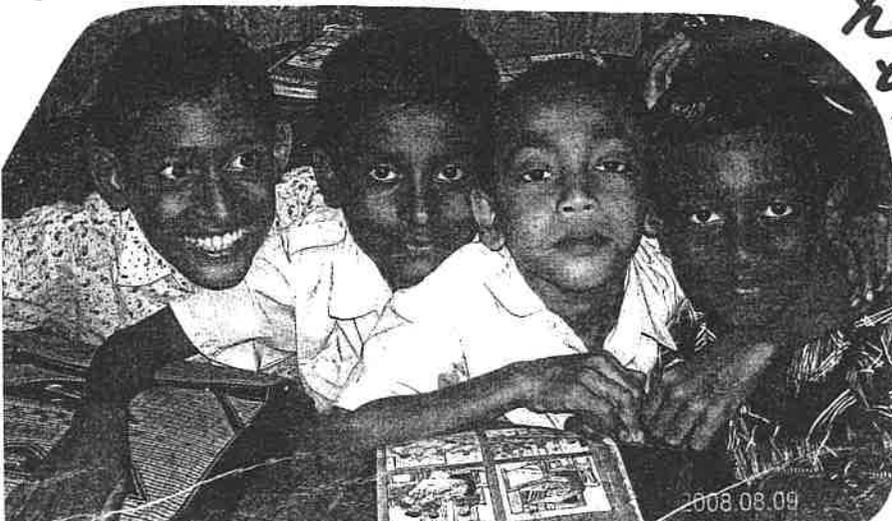
8月9日午前中はチームに分かれて学校訪問

をしました。訪ねた学校は、モニター  
スクール、カジパラスクール、リクティスクール  
です。学校に着くと子供達や先生方が大歓迎  
してくれました。予想外のニッコい驚き。そして同時  
にとても嬉しかったのです。その時の子供達の  
笑顔は一人一人キラキラと輝いていました。  
その光景を見ているのがホカホカと温かくほほに  
授業を見せられました。子供達は積極的  
でした。勉強に対する意欲が強いと感じました。  
子供達は学校の時間以外、親の仕事の手伝いを  
しているという事を知り驚きました。どちらも100%でこぼして  
いる姿に尊敬しました。子供達は明るい未来に  
向かって一歩ずつ前向きに進んでいると感じ  
ました。その姿を見て自分自身について考える機会に  
なりました。

BDDスクールの先生

午後は、ヒンズー教の村を訪問しました。太鼓や歌  
に合わせて皆がおどりました。言葉や文化は異なる  
けれどこの心を通し、同じ人間であることを実感  
する事が出来た。とても良い経験となりました。

その夜ヒンズー教の人達  
と夕日を見に行きました。  
とてもキレイでした。  
バンダラティは経済  
面で豊かでは  
ないが自然や  
心が豊かだと  
その夕日を見て  
思いました。



# 3日目! 8月10日

くもり時々雨

## カトリック教会の主日礼拝

今日は日曜日だったので教会へ。村のカトリック教会の主日礼拝に参加させていただきました。礼拝堂の中に入ると既にたくさんの人が集まっており、神父様がいる中、厳かなムードで礼拝が行われました。全世界の人が同じ日曜日に、同じ神様を礼拝しているということが感じられた良いときでした。



## 職業訓練校

礼拝後は職業訓練校へ。コンピューター科の女子クラス・機械科の男子クラス・電気科のクラスを見学させていただきました。十分な設備が整っているとは言い難い環境の中でも、私たちと同年代の子たちが具体的な将来の夢を持って勉強している姿に私たちも刺激を受けました。

## ハイスクール

続いて、ハイスクールへ。大勢の生徒たちが廊下の両脇に列を作って私たちを感激してくれました。そして、全校生徒が集まるような大教室で交流会を持ちました。1人ずつ自己紹介をした後、両国の歌の交換をしたり、お互いの国のことについて質問し合いました。みんな日本のことについて興味シンシンのようで、日本の食文化や女性の結婚適齢期のことについての質問を受けました。また、峰さんが将来の夢はありますか？と質問したところ、医師と答えた子がいました。



## ボート trip&マザーテレサの家

午後は、ボートに乗ってマザーテレサの家へ。ここは知的障害を持った方を受け入れている施設で、シスター4人とスタッフ5人で60人近くの方の面倒を見ている、とのことでした。シスターの方に施設の中を案内してもらった後、皆さんと一緒に歌をうたい楽しみました。みんな笑顔が素敵。そして、なにより純粋で可愛かったです。また、この施設訪問を通して、マザーテレサの働きを身近に感じられました。

# A team の1週間

In

ジャマルプール  
&  
ボクシガーンジ



8/11 Mon.

プーバールのオフィスでB・Cチームと別れ、  
ジャマルプールへ。その道中は色々のコヒロ  
ありました。車のパンク、交通事故。。。

皆が無事であること、本当に感謝です!

↑ジャマルプールの子どもたち

ジャマルではオリエンテーションの後、オフィスの近辺を散策。地元の人々の熱烈  
歓迎を受けました。また、オフィスの周りは田んぼが多く、夜はホテルを満喫。  
この日のシェアリングでは、道中遭った事故を通して色々考えるコヒロ出来た。

8/12 Tue.

バッチェラスクールに訪問。この日はリキヤで木々重なり、(このため、姓復  
なると5時間!) ぬか子みかび道では皆が歩いた。途中で雨が降って  
土がかなり大変な移動でした。バッチェラスクールでは熱烈に歓迎を受け、  
私たちがそれに答えるべくソーラン節を披露。マニゴーモ  
↓バッチェラスクールにて。

いっしょに歌うようにして  
大満足の楽しい学校訪問  
でした。

夜はまたシェアリング。バングラ  
も夜は結構涼しくて、またの空  
をいっしょに寝る予定です。



# 8/13 Wed.

この日はダグネッシュルスクールに訪問。移動は昨日と同じリキマで  
ほとんどリキマワラも同じ！コミュニケーションがとれずワラではないけれど  
一緒に歌を歌ってやり、すっかやん中良しにばかりして。

ダグネッシュルスクールは、校舎がレンガで作られていて、手子屋のよう  
なところでした。早くレンガ作りの校舎が建てほしいと思つたと同時に、  
↓ダグネッシュルスクール



和(ら)もそのために何か  
したいと思つてほしいところ  
で、「女性工場の工場」を  
披露し、BDPスタッフの協力  
もあり大成功！

今日はジャマルのスタッフ、モクリスエンの家に訪問しました。モクリスエンのお父さん  
はBDPを始めた人の一人だそうです。

# 8/14 Thu.

↓2日間お世話になりました  
リキマワラ



この日は朝から大雨だったため学校訪問  
は中止に。午前中はひにすらんモンテ舞場で、  
管で歌い、足音り続けました。

今日はテュラススクールでのcommunity meeting  
とバシエットエンの奥さんの家に訪問。  
この日の移動はリキマバニでした。  
夜はホテルでいっぱいだったのに管で感動。  
ゆつたりスワッシュルでいたが、Aチーム、そして  
BDPスタッフの絆が深まった1日でした。

ロンモアット河でボートトリップ。  
ヘモントさんが歌い出して船上は  
ヘモント劇場に早がわり。  
「ジャバニガン!〔日本の歌を歌って)』と  
振られてもすぐに歌えないのは日本人の  
弱いところ。

河に降りてスタッフと走り幅跳みや、エビ採り  
をしていた子ども達とサッカーなどをして  
遊んだ。



メンディーを左手に描いてもらっているところ

ホビさんの奥さんがいる村を訪問。  
日本人の訪問は初めてらしく、  
どこに行っても人人々…に囲まれる。  
食べきれないほどのランチのもてなし。  
訪問した村の中で一番の歓迎のされ具合  
だった。

バジェットさんの奥さんにメンディーを  
施してもらう。細かい模様も下書きなし!  
みんなで「シュンドゥール!(すごい!)」  
を連発していた。

スタッフの奥さん達にサリーを着せてもら  
う。これがバングラ流サリー!  
初めてきたサリーはちょっと動き辛かった。



山じゃん憧れのボクシガンジへ泊旅行！  
バン格拉で初めて見る山々に、電気の無い生活。  
大きなトカゲにも遭遇。

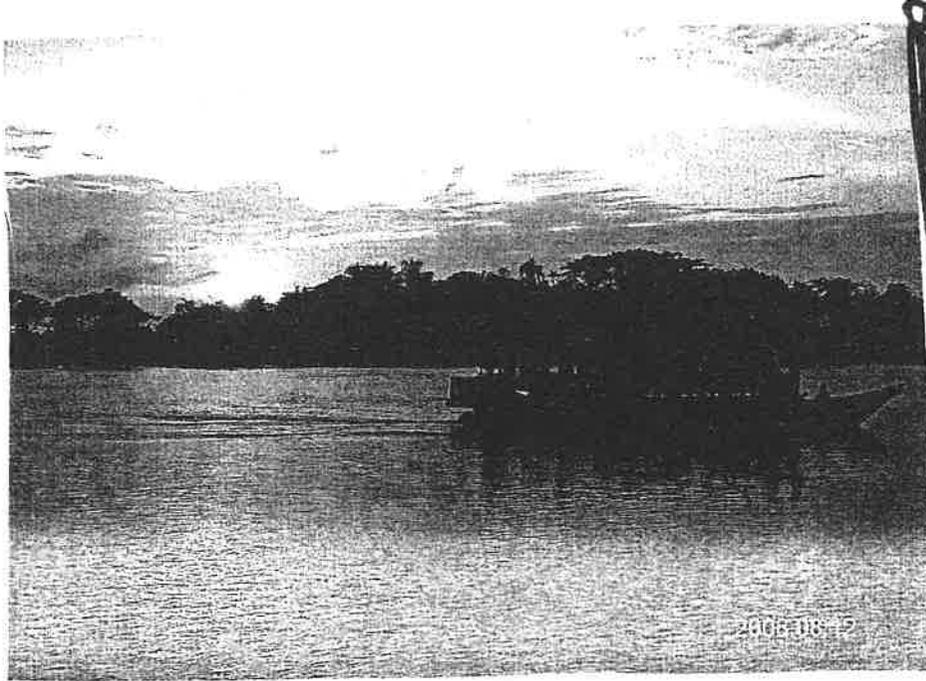
訪問した学校では、最初は見慣れない外国人に  
緊張気味だった子ども達も、ホールやシャボン玉  
と一緒に遊べばすぐに打ち解けてくれる。  
それがとても純粋で、可愛い。



少数民族ガロ族の村の礼拝にも参加。  
礼拝は民族や村によって特有の雰囲気がある。  
村の人々に日本のイメージを聞いたら「原爆」  
「地震が多い」「電化製品」などが上がり、  
よく知っていることに驚いた。  
文字を持たないガロ族の踊りや歌も披露され、  
ボクシガンジでも濃い経験をさせてもらった。

ドンノバットマーチを歌って  
ボクシガンジ&BDPスタッフにお別れ。  
チームでの最後のシェアリングでは  
なせスタッフがいたれりつくせりの  
待遇をしてくれるのか等を話し合った。  
この日は深夜までスタッフと歌い、  
踊ってジャマル最後の夜を堪能した。





BDチーム皆で船に乗りました。おにぎりも、お茶とクッキーが用意されていました。ドンバート♡船口から見る景色はとてきれいでした。たくさんの人達が笑顔で手を振ってくれました。ネトコナの人達も皆温かい人達だと感じました。

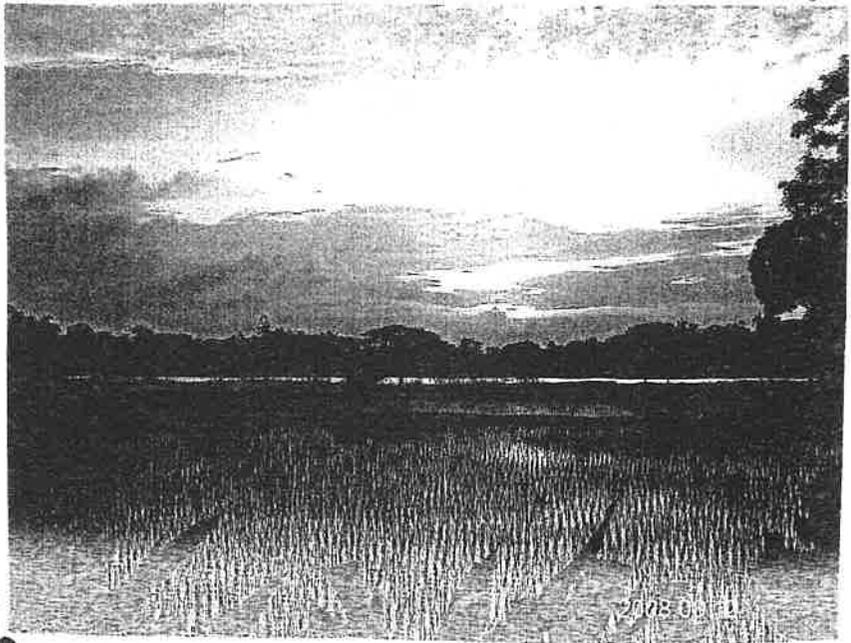
BDPスクールの先生達がわざわざ来し下さり船口を着せてくれました。手にはメニューという、ハチという葉っぱでペイントをしてくれました。皆ともしもお似合いでした。すごく楽しい時間を過ごせました。♡



# ネトロコナ



## 夕日



ネトロコナではほとんども毎日散歩をしました。ちやうど夕日が見れる時間に出発しました。

高い建物がないので、ネトロコナの空はとて広いです。これが本当の空だと思いました。夕日はとてきれいで、時間が経つのをつい忘れてしまいました。

そして帰ると必ずお茶とクッキーが用意されています。ほんとに幸せなことでしょ。

空の下でのお茶は格別おいしかったです。

モジャ——!!

散歩 



# 学校訪問



ネトロナ地区にある学校 6 校のうち5校を訪問しました。学校 訪問のときには、まず2、3人ずつに分かれてクラスに入り、一緒に授業に参加させてもらいました。授業は先生の言うことをリピートする形式で行われていて、子どもたちが目を輝かせながら勉強している姿が印象的でした。



その後、先生方が授業を中断してくださり、子どもたちとの交流の時をもちました。子どもたちに教科書を見せながら、エタキー？（これは何？）と聞いたりしてベンガル語と英語を教えあったり、ABC の歌をうたったりもしました。また、ボロボロガーチェ（大きなくりの木の下で）や head shoulder…の歌を振りつきで一緒に歌ったり、折り紙を折ったりして楽しいときをすごしました。



真険に授業に取り組んで子どもたち

そして、B チームでは、出し物として「腹ぺこあおむし」のペープサートを歌に合わせながらやりました。あおむしが食べていく食べ物をジャンプラー・カレー・パイナップル・マンゴー・スターフルーツ・バナナなどバングラの食べ物に置き換えたり、エンディングにポジャポティー（ちょうちょ）の歌を加えたりして、バングラヴァージョンにアレンジ。チームみんなで楽しみながらできたので良かったです！また、子供たちも楽しそうに見てくれて嬉しかったです！

くぼらへこあむし



ワタイボカヨ 火曜日～なしを2つ食べました〜♪



それこそまだあった

# 村訪問

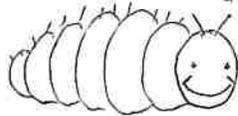


村にある BDP スクール の先生方のお宅を訪問させていただきました。  
どこの家庭でも私たちが温かく迎え、もてなしてくださいました。

また、日本から持ってきた大きな鯉のぼりにバンガラへのメッセージを書き、学校に持っていきました。天気も良く、良い風が吹いてくれたので、大空をきれいに泳ぐ鯉のぼりの姿を見ることができました。



We LOVE Bangladesh ♡ ♡



☆ ポシヤポティー！（ちやうち）

木曜日、いちごを4つ食べました～おむしやむしや

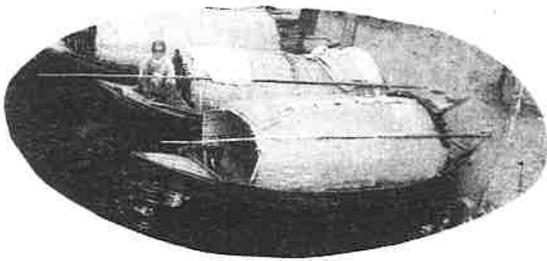


さなま





8月13日(水) ☔/☁

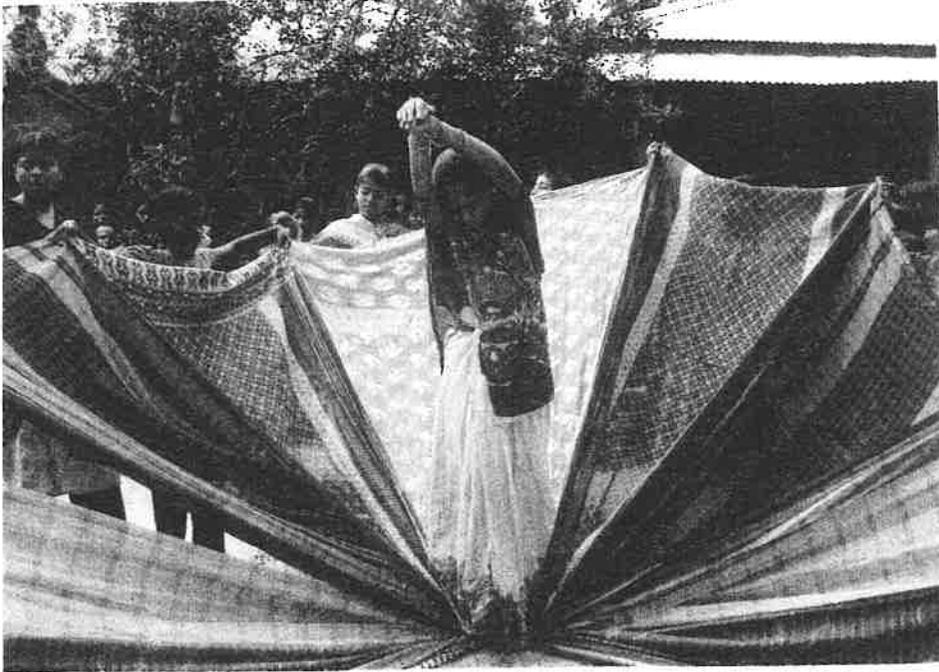


ミヤウチムリアスノールト!

本当は1時間かいて歩いていけば良かったけど、  
雨だったので、途中までバスカリに乗せて  
もらった後、木や竹などで作っている1-カという  
ボートで行きました! ~ 川や海 ~

川の舟を自由自在に  
あやつり、くじらの羽の羽に  
なべて踊って小舟が  
すごくキレイでした!

そして、私たちが練習している  
大さな舟の係りもやて  
くいて、全員が快音に作り  
ていました。バンカリ音で  
十分に意味が通じ、みんな  
「すばい! すばい!」と言っていました  
最後は二いの舟をプレゼント  
風が吹かなくて残念だった  
けど、8mの巨大サイズに  
多岐を有る驚き、嬉しい  
でした♡



1-ストバウガノスノールト! インジボートで行きました。  
みんなミヤウチムリアスノールトを褒めてくれたり、舟の係りも練習♡  
ロシエルさんやご機嫌で舟と歌をうたってくれています。

学校に着き案内されたのは、舟で記者会見の舟が  
並ぶ舟席! 本当に芸能人に行かせる気分でした。  
今日はムジカラマシエが日替りされた日だし、  
国全体の祝日。舟にのぼりながら練習をしてくれて、  
歌やダンスまで... 本当に楽しかったです♡  
帰りのボートでは、スノックと共に水のかけ合い!!  
モウ、みんなビシビシヨ。ロシエル、ロサム、オニオ  
川に落ちました。(笑) そして、帰りの道でスノックでフリー  
をしました。



16:00からテレビ放送に  
い。先生方の教育熱心さ  
にはびっくりしました。

8月15日(金) ☔/☁



私おたんてにハカッ冷えてしまておたんての1日を話すと、朝食を  
 食べた後、バス、バスロービー行ったそうです。その際、あゆみは私の恋人であ  
 るイクン、バッドライバー、ミンターを助けてたらしく、謝しせん。3校目にバス  
 バススクールへ行ったそうです。そこで初めてCFMのソーラン節を披露。アキと私がしるしで、  
 上手くやらせてもらったよ。移動中、BDPの方が「あと2分と雨が降ると言て、民家を雨宿り  
 させてもらったよ」と「雨が降らなかつたよ」といふ。帰ったら皆即寝るくらい疲れたみたい  
 です。私と声の出ないアキ2人組は留守番。体温計、98度が普通とか意味分かんねえと  
 りあえり102度だった私、女の友に言った驚いた。ゆえに絶対私がえてるよ、多分37とか38な  
 普通の熱だもん。バングラ療法を熱下げてもらいました。持ちし1Mの内容は秘密です。とりお  
 宿、電車が、おんこからゆくり水を垂らしてもらったのす!!無限の冷えてました。冷えて多量。  
 途中、お菓子とかワッ、とか心が揺れてきた。ただしたりありかたのせいで、アキとアキ  
 もしいまい用意していただいた。1夜には、お手伝いの若者イクン、トランさんが来て、私を起す  
 上がった。のりこさん、えまさん、トランさんが世間話していた。私もトイレを座して、舌をま  
 した。トランさん...「彼女しんのね、アキもイクンアキ...アキよ...私には、イクン、ミンターが...ほから  
 大丈夫...」BDPの方がアキと私の為と食べ物(トゴ、パン、ケ、サ、カ)買ってきてくれ  
 ました。アキがどういいます。おたんてが...「おたんてが...」ガガガガ各赤いビー、各めつち  
 せん、おんこがた多パウンドケキ、バングラ来てからネカスール。おんこがた多ハカッ熱出てきた  
 みたい!!アキにしても、心からすみません。今度は私が冷えて吐きました。  
 BDPの方、現地の女性方、そしてCFMの皆様、ありがとうございます。心から。

15

この日はカテラススクールに行きました。\*私達が宿泊して  
 (1)眼科病院(今は診察のみしてる)の奥へ行く学校があり、そこがカテ  
 ラススクール。子供達は通学時病院前を横切、学校へ行き、2階にある  
 私達の部屋にたかて「おんこ」が「ハカッ」アキ... (特に呼ばれらるい  
 と言て、そんな毎日でした。この日は愛おカテラ子供達の学校へ  
 えまさんの娘、ミンターが坊主頭になってえまさん4日とかショックそだ  
 た。笑アキの授業、参観もエマは果たしたそうです。アキ...「大きな  
 かな披露した。私、大役(笑)演習)そしてソーランもしました。アキ  
 からけなソーラン、結局披露した(自分参加した)の1回だけだ  
 ココナリ、ココナリダンスをteatimeにいただいた。多量の便をの  
 いた。Mの夜は歌合戦。おん最後の夜か。トランさん、1番た  
 った。踊った。ステキだった。参観したらclubの、楽しも帰りに、  
 涙ぐんでました。あ!!つか、ミンター(私の恋人)、病院のあたりに隣の  
 の隣だったらしい。けんた...「もっと最初と言てよ〜ん」アキとアキ  
 とダニエルさん、トランさん、東国原知事、ありがとうございます!!アキとアキ、愛♡You!!



8月11日(日)



バプテスト教会に行きました  
70バイブルを出席した。カ  
トリック教会と似ている感じ  
カセージには熱いがあり熱か  
私にかけ礼拝中に「ア-ミン  
バイス」を賛美。  
お礼に歌と踊りを披露  
していただきました。  
祝祭の夜、BOPの創始者  
マカールの弟さんとの  
お話しが面白かったです。

# 父さんの BIRTH DAY

教会から帰ると父さんのビスケットパーティーが！  
とても楽しそうに父さんでした。

11:30 バシガリで近所のバザールへ。  
市場で色々な物を買った！  
ビスギにアサカールと楽しく買物の♡  
お父さんはビスギの値切り交渉を  
70分間楽しんでいたらしい！



カトリック学校のモシカ先生と  
ウシヤ先生がカトリックを機にかけて着付け  
に来てくれた。  
お父さん... ムシヤを連れてきたのは  
バシガリメントウの妹さんだった！  
ニヤにはお礼を言っていた。  
カトリックは好きにして重くて大変。  
バシガリの姉は毎日3分ほどカトリックを  
着てはうのだからいいですわ！  
カトリックの子供たちと手を繋いで  
散歩したときお礼を「ビスケット！」  
と言ってくれた♡



## 8月18日(月) 再びプロバイル人集合!!

1週間農村を過ぐ、Aチーム、Bチーム、Cチーム、バスガール、公共のバス、フェリー、車をプロバイルに戻ってきた。  
 懐かしい昔ながらのHLSのインフラも上から、その頃の農村自慢が始まっています。  
 どのセクターもやっぱり自分が好きで農村が一番! と思っている方が多い。



17:00頃、4年をたてい人だけ近頃の現場へ  
 4年生、4年をたてい人はフリータイム。  
 19:00頃、BPPスタッフの皆さんによる  
 懇談会! 知の付いた曲は多かったです!  
 本当に歌が上手でした。



20:00頃の夕食  
 1週間プロバイルに28人左右のメンバー、  
 テーブルが狭くて不自由を感じるけれど、  
 仲間が互いに感じていたら  
 いいですね... と思っています。 -31-



AUG 4日

カーパルに1週間ぶりの朝多朝から大雨でした心もで  
三本操は中止でした。代わりに6:45amからみおさんが朝

拝をしてきました。そしてみんな朝食を食べ、雨はようやく止み始めて、9:30amから  
始まるマーケットに10:00amに行きました。バザールでは、食べ物グループとアクセサリー  
・服類グループに分かれて効率良くshopping。私は食べ物グループに行き  
ました。歩いてすぐの市場でした。お菓子をたくさん買った。お肉もたくさん買ったので、食べ物  
グループで少しアゲたか見ました。お肉はといてお肉も超痛くて、でもミルクス超  
欲しいって感じで葛藤して、レジを済ませたらとと帰りました。中川さんとえまさん  
と一緒に先に帰って少し休んでました。お肉は5,000円ではお肉10,000円持って来てお肉  
良かた。トクさん(お肉)の後サイフの家の実家(豪邸)へ行っていたそう。14:30頃  
サイフの家の弟さんが経営している化学工場を見学させてもらいました。20人くらい来て、  
オーストラリアのケトルームでカーとスカーをこぞうにしました。すごい豪華、これが日本のオース  
トラリアにいる本業でした。



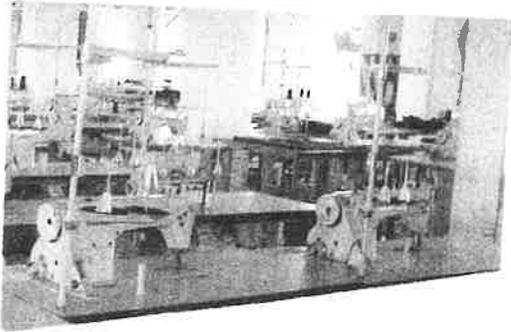
16:00PMからカーパルショー。見学から帰ってきたらすごいSetting!何やら本格  
的になりそう!!すごい重機や楽器をとってカーパルショーは始まりました。まず  
バングラの子供達からすごいプログラムも12くらまであって本当にすごかった!!お客さんもど  
から来たんですごくて、席は埋まってBut、和楽器俱楽部が発表するくらいから大雨  
で、少し雨になってきたから、少し短縮して出し物を披露しました。でもよかったお肉達  
!!最後は皆めっちゃ盛り上がった!!みんなは一つって感じで音楽を皆で楽し  
んでました(World Musicがかった)。夜、夕食(魚カレー、ダンス等etc...)後夕拝。  
その後のシェアリングはA・B・Cチームそれぞれ1週間のことを個々に言った。私の発言でC  
のみおさんを焦らせてしまったけど、まあいいに語おなじくらい宝物です。皆それぞれだった  
し、自分のチーム、食がたから思っただけ、お肉はCチームでよかった。シェアリング後、Cチ  
ームはCだけで再びsharing!お肉はたまたま、シェアリングは事実上でもバングラदेशという  
国の状態、自分達は向の目的で来たのか再び考えさせられました。 —32—

最終日

8月20日 (水)

10:00

BPPスタッフと共に最後の合同「シェアリング」。  
 メンバー全員とスタッフから音声を2週間の感想を話しました。



韓国製のミシン



社長室

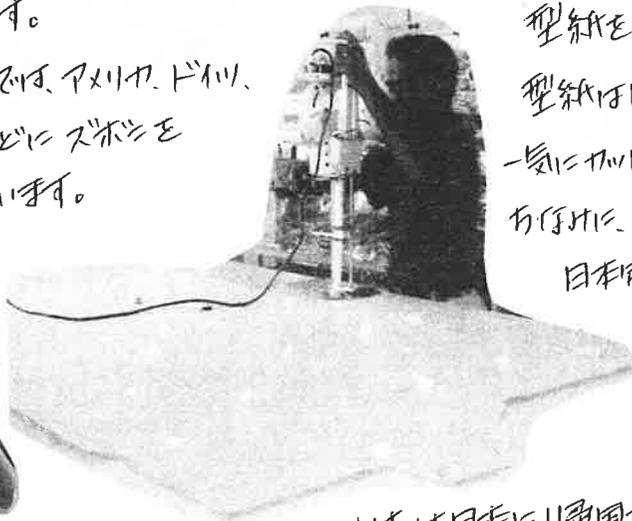
15:30

~縫製工場~

現地のスタッフ100人くらいで働いていて手と足が忙し。

主に暑く暑い午前中に作業をします。

この工場では、アメリカ、ドイツ、フランスなどにスポーツを輸出しています。



型紙をセッティングしているところ、  
 型紙は10枚くらい  
 一気にカットするらしいです。  
 右側には、この機械は日本製のらしいです。



20:30

11日は日本に帰国する日曜日。  
 バンコク空港までのゆとりとバスに日曜日を、思い出 - 33 -  
 あつという間でした。ね。  
 シンガポールでバニラを学び、卒業証書と、卒業証書を  
 生かすグアテマラを！





# 感想文



## あの2秒の重さ

山口 旬

私にとって5回目となるSTでしたが、今回の参加動機の最大の理由は我が教え子がツアーに参加したことでした。私の勤める横須賀学院がACEFと関わり始めて十余年、はじめの頃は「バングラに熱あげるのもいいけどさ、やっぱり国際交流ってんなら実際に子どもをつれていかなきゃダメだな」などといわれ、それはそれはあつたまにきたものでした。それ以来、まさか小学生を連れて行くのはさすがに無理なので、せめて併設の高校から生徒を参加させるのが目標でした。それが昨年「来年行く」という者が出現、ここでやらずばとがんばって奨学金制度を立ち上げるために何回も企画書を書き、交渉を繰り返してなんとか後援会から予算をもらうことができました。結果、3人の参加者が現れようやく念願かなったとの思いがあります。

さてこうして参加したSTはこれまでにない濃厚なものでした。教え子3人がいたという事実もありましたが、やはりジャマルプールでの1週間は決してこれからの人生でも消えることのない大きな何かを残していきました。

農村初日、対向車線の大型バスが中央線を逆行してきてよけきれず正面から激突、すんでのところで車は大破をまぬがれましたがほぼ全員が砕けたガラスを浴びました。その間約2秒。奇跡的に誰一人かすり傷一つなかったのは神様に守られたとしか言いようがありません。しかし日本の感覚、法からすれば逆行してきたバスが悪いのは一目瞭然。こちらに落ち度がないのは明白なのにヤジ馬感覚の村人に車を囲まれ、一瞬「焼き討ちか!？」と恐怖におびえたあの長い緊張の時間、あげくに日本人メンバーを守りその場を一刻も早く立ち去るために賠償金まで支払うことになったこの理不尽な事実は、単に価値観の違いだけではすまされない複雑なしこりを残しました。

ジャマルではBDPスタッフがこれまでにない心遣いで私たちを包んでくれました。おそらく到着時から多かれ少なかれ心に傷を抱えたメンバーに対し、現地スタッフは必死の思いで接していたにちがいません。これほどまでに彼らの深い思い入れを感じたことはかつてありませんでした。スタッフ全員の自宅を訪問して家族と語り合い、夜には毎度おなじみヘモント劇場が連日開幕してみんなでベンガルソングを合唱。ボクシガンジにまで出かけ、インド国境まで旅をしたとき、バングラでは珍しい山に登って夕陽を見たとき、そして別れの朝、言葉なく笑顔なくただただひたすら涙をこらえる現地スタッフと抱き合ったときに、ああ彼らは本当に心から自分たちに愛を注いでくれていたんだなと心から感じたのでした。帰りの車では約1時間半、誰一人口をききませんでした。それはチーム全員がその心を受け取ったからでしょう。

彼らの瞳をうるませていたものは「仕事だから日本人のお世話をする」という気持ちだけでは決して流せない涙でした。私は「心配する相手を作ることこそ国際交流だ」と言い続けてきましたし、これまでのツアーでも親しくなった相手はいましたが、今回のジャマルの1週間はこれまでにない密度で心に深く残る絆のようなものを感じました。

車がぶつかる瞬間のあの2秒、別れ際のモクレス、バジェット、ホビ、モタレフそしてボクシガンジのマスッド各氏の無言の涙、その一瞬一瞬が今でも脳裏から離れることはありません。

## バングラデシュスタディーツアーに参加して

赤岩英里香

私は、バングラデシュスタディーツアーに参加して、いろいろ考えさせられたり、学んだりしました。空港へ着いた時やデパートに買い物へ行った時に物乞いをしている子どもたちを見て、何もできなかった私たちは、ただ心の中でごめんねと言って無視をするしかなかった。お金を渡すわけには、いかなかったからだ。何も助けてあげることができなかった自分が恥かしかった。私だけでなく 28 人全員思ったと思う。これが一つ目のショックでした。

二つ目は、農村に行くときの事故です。私は、生まれて初めて事故を体験しました。行く前にみんなで神様にお祈りをしたのに、どうして事故が起きたんだろうって思いました。だけど、これも神様からの試練なんじゃないかと思いました。バスは、当て逃げして行ってしまい、知らない村人が出てきて金の請求をされて本当に怖かったです。この二つが私にとってショックな出来事でした。事故の後は、何事もなく、無事にジャマルプールに着きました。

子どもたちとは、すぐに仲良くなって遊びました。私がシャボン玉を貸してあげたら取りっこが始まり、「どうして仲良くできないんだろう。」て思いました。次の日からは、三日間風邪を引いて、熱を出してしまいました。その時に、みんなが助けてくれました。薬を分けてくれたり、大丈夫って声をかけてくれたりして、感謝する気持ちを持つことって大切なんだなあって改めて感じました。体調が良くなってからは、学校訪問をしました。子どもたちが目をキラキラ輝かせながら一生懸命勉強していた様子が今でも忘れられません。

私たち日本人は、当たり前のように義務教育を受けて、高校や大学に進学するのにバングラデシュの子どもたちは、いつ学校に行けなくなっても、おかしくはないです。私はバングラデシュに来る前は、学校に行けて当たり前だと思ってたし、「今日は学校に行きたくない。」って思ったこともあったけど、バングラデシュに来て、本当は学校に行けるって事は、幸せで当たり前じゃないんだって感じました。それに、世界には、まだまだ学校に行けてない子どもたちがいるって事を忘れてはならず、これからも考えていかななくてはならないのです。

今回のスタディーツアーに参加して、自分自身が成長させられたし、自分と自分が見直す時間ができて良かったし、種をまく人ができたことがとても嬉しかったです。貧しいからじゃなくて、一生懸命に毎日を生きようと思って生きているし、がんばって働いていて、お金よりとかより幸せって大切なんじゃないかなあって思いました。もう言葉では、言い表せないです。またいつかスタディーツアーに参加してバングラデシュに行きたいです。絶対に行きます。このメンバーでバングラデシュに行けた事は、神様からの夏休みのプレゼントだと思っているし、一生忘れません。本当にありがとうございました。

## 大好き！！バングラデシュ

共愛学園高等学校 2年 都丸紗椰

学生のうちに発展途上国に行きたいと思っていたので、行けると決まった時は本当に嬉しかったです。

空港を出た時、初めてここはバングラデシュなのだと感じました。子供が私たちにお金を求めている姿を見て、泣いてしまいました。自分でもこんなにすぐ泣くとは思っていなかったの、これからのことが心配でした。そんな私を元気にしてくれたのは子供たちの笑顔でした。携帯やデジカメに興味津津だったり、シャボン玉やボールで遊んでいる時の楽しそうな笑顔を見ていたら、私まで笑顔になっていました。学校で勉強をしている時の子供たちは目が輝いていて、どの子も手を挙げるし真剣に授業を受けているので、その姿に圧倒されました。授業中の自分の姿と比べると情けなく思いました。そんな意欲的な子供たちに、いつか学校に通えなくなる日が来るかと思うと複雑な気持ちになります。最近、国で教育は大切という考えが始まっているらしいので、一日でも早く全員の子供が学校に通えるようになってほしいです。

私がここに来て一番良かった事は、Aチームで行ったジャマルプールにいるBDPスタッフに会えたことです。いつも親切だし気づかってくださり、過ごしやすかったのはスタッフの方のおかげだと思います。ヘモントさんを中心に歌ったり踊ったりの日でした。移動中の車、船、力車でも歌って、とても楽しかったです。カレーは毎日違っておいしかったし、マンゴーもたくさん食べました。発展途上国に来ているとは思えないほど楽しい毎日を送っていました。でも、私たちが楽しい時間を過ごしている時に、食べ物に困っている人や一生懸命働いている子供や大人がいたということに気付きました。お金があったから水や食べ物、寝る所にも困らずに生活出来たのだと思います。この時改めて貧富の差というものを感じました。田んぼにいた蛭はクリスマスイルミネーションみたいにすごかったし、ボクシガンジで見た夕日には癒されました。

バングラデシュの歌や踊り、自然に魅了され、この国が大好きになりました。そして何より、大切な人がたくさん出来た事が一番の自慢です。二週間での事を深く胸に刻んで、私も現地の人たちのように一生懸命生きて行こうと思います。

私たちを支えてくれたスタッフの方、仲間たち、多くの人に感謝しています。

# バングラ大好き！

牧山美穂

2週間バングラデシュで印象に残ったのは、1週間での農村で過ごしたことです。

私はジャマルプール地区でした。

農村に行く途中パンクが起きました！40分もかかった。長いー!!タイヤも直ったことで出発です！車の中はみんな爆睡でした。デコボコの道に揺れながらも寝ていました。オシムさん休憩！20分くらいたってまた出発！あと1時間だー！って思っていたら…

事故…。怖かった。大型バスにはじかれた。ガラスも飛び散った。本当に怖かった。どうしていいかわからないし。村人は車を囲って100人くらいこっちの方を見てた。少し村人ともめたがお金で解決した。悔しかったけど、とりあえずここを脱出したかった。外国人だからってたくさんお金取ったんだろうね。明らかに向こうが悪かったのに…神様は私たちを守ってくれて本当にありがとう。

そして無事に農村に到着！

農村は何もないところだった。お店も全然ないし田舎！って思った。でも1週間農村で過ごして…たくさん経験や体験したので日本にいる人達にバングラのことを少しでも興味もってほしいなって思いました。自分が思っているよりバングラデシュは絶対に良い所です!!力車なんて何時間乗ったのかな？ 1週間で10時間くらいかな？スタッフ1人1人と大切な絆が出来、私たちAチームを支えてもらって楽しい時間が過ごせたのは本当にスタッフのおかげでした。細かいところまで気配りして下さり私たちは甘えてばかりでした。スタッフがいなければ私たちは何も出来なかったんだろうなって思ったし、居てくれたから生活にも不自由がなかったなって思いました。(マンゴーたくさん!)感謝の気持ちでいっぱいです。もう少し英語喋れたらな～。ちゃんと言えたのに…別れの時、本当にスタッフと離れたくなかったです。アバルデカホベ!!

そして1時間半、車の中は無言！静かなワゴンでした。本当に楽しい1週間でした!!

まとめると…私は子供たちから幸せを信じる笑顔がたくさん見れました。バングラを身近に感じることも出来たし、人の豊かさを感じた。自分を成長させられ人生の道も変わるなって思いました。

本当に素晴らしい国です！私はバングラデシュが大好きです!!

## “日常”が変化するきっかけ

村 苑子

スタディーツアーに参加したのは、漠然と過ごしていた大学生生活に変化を与える、何かきっかけが欲しかったからだ。ツアーからは、その目的にとっては十分過ぎるほど沢山のきっかけを与えられた。教育について、国際協力のあり方について、貧困問題、信仰のこと、異文化コミュニケーション、日本ではなかなか実感を持っては考えられないことをバングラデシュでの生活ではその都度考えることができた。例えばただダッカに買い物に出るだけでも、店の前に車を止めるとすぐにやってきて窓を叩いてくる物乞いの大人や子どもと、デパートに買い物に来ている立派な服を着た家族の姿を目にすると、バングラデシュの格差社会について考えざるをえなくなる。日本も格差社会が社会問題となっているが、ここまではっきり目に見えるとまた感じることも違う。信仰については、顎鬚をのばしたムスリムのおじいさん、ヒンドゥー教徒の村で聞いて驚いたヒンドゥー教の歌、マザーテレサの家でのクリスチャンのシスターの言葉、そして毎朝・毎晩の礼拝やオリエンテーションで聞いたツアーメンバーの話などから、様々な宗教の存在、そして彼らが自分の信仰をいかに大切にしているのかをひしひしと感じた。マザーテレサの家では、シスターや保護されている人々に会い、“神の愛”にも触れた。

帰国してしばらくは日本とバングラデシュの環境にギャップがありすぎて、日本に帰ってきてからの日常と、バングラデシュに行ったことが結びつかなかった。まるで長い夢だったようにも思った。現地スタッフの奥さんが左腕に描いてくれたメンディーが段々と薄くなって消えてしまったように、バングラデシュで過ごした非日常の経験が薄くなっていく気がした。疲労した身体を布団に横たえていても、こんなことをしていいのかと思うこともあったが、何日かするうちに慣れていった。日本で生活するなかで「日常に埋もれていくのは怖い」と初めて思った。だが、ツアーで経験した非日常は今でも私の中に息づいている。それは、この“日常”生活に多少の違和感があることと、バングラデシュで学校に通う子ども達の輝く目をよく思い出すことだ。

帰りの飛行機に乗っているときから、既にコマの回転が止まりかけていることを感じた。国際関係や子どもと関わりのある仕事や学問をしているのならまだしも、化学科で学んでいる私はツアーの経験を活かして何ができるのだろうか。コマの回転をとめずに、ツアーを“思い出”にしないためにはどうすればいいのか。その答えを探して、私の中ではこれからずっと、スタディーツアーは続いてゆくのだろう。

## 感謝の気持ち

池田 早希

本当にたくさんの方のことを学び、たくさんの方を感じた2週間でした。行く前までは、バングラデシュという私の中では「貧困」というイメージが大半を占めていました。ただ実際そこで生活してみて、人々の温かさ、笑顔、そして自然の豊かさに触れ、私の中でバングラデシュのイメージはかなり変わりました。特に印象に残っているのは農村で過ごした1週間。リキシャで往復5時間の移動があり、その間いろいろなことを考えました。人を乗せていなくてもめっちゃめっちゃ重いのに、それに三人くらい乗せて、晴れの日には汗でびしょびしょ、雨の日には雨でびしょびしょになりながら、ただただ前だけを見て、棒のように細い足で一生懸命こいでくれました。雨が降るとボロボロのビニールを膝にかけてくれて、何回も後ろを見て気遣ってくれました。そのおじさんはたぶん事故かなにかで足の指が2本ほどなく、仕事のキツさを物語っていました。すごくキツイ仕事なのに、1日の収入は200タカほどで、そのうち半分くらい親方に搾取されると聞いて驚きました。彼等もちろんと守らなくてはならない家庭があるわけで、収入がない日はどうするのだろうと考えると、涙が出てしまいました。本当に一生懸命「生きている」って感じがして、何気なく毎日を送っていた自分が恥ずかしくなりました。またインドとの国境に近いボクシガンジ地区にも行きました。そこは全く電気というものが通っていません。水浴び場と井戸もめっちゃくちゃ離れていて、水を運ぶだけでも一苦労です。日本ではあるのが当たり前だと思う、水や電気。洗濯も洗い物もお風呂もなにもかもがボタン1つで出来る中、水や電気の大切さが忘れてしまうような環境だけど、バングラデシュ、特にボクシガンジでは、水や電気がどれほど大切なのか、苦労を通して初めて身に染みて分かったような気がしました。

本当にたった二週間でたくさんの方に出会い、たくさんの方を感じ、たくさんの方の優しさを受けました。日本にいと、私自身もそうですが、みんな自分のことで精一杯になり、いろいろなことを犠牲にしてしまっているように思います。他人を思いやる気持ちをもっと大切にしたい、それから当たり前だと思う気持ちをなくし、感謝の気持ちを常に持てるようになりたい。バングラデシュでの2週間を通してこのようなことを思いました。バングラデシュは、もう1度自分自身を見つめ直す「鏡」となったように思います。

今回ツアーに参加したことで、蒔かれた種を花咲かすことが出来たと思います。この花を咲かせ続け、広げていくためにはどうしたらいいか。それはやっぱりバングラデシュでのことを周りにいるたくさんの方たちに伝え、共有していくこと。そして私は今回バングラデシュで学んだことで、また新たな自分の目標が出来ました。だから自分自身、その目標に向かってチャレンジしていくことだと思います。頑張ります！！

そして最後になりましたが、ツアーの間じゅう私たちをいつも支えてくださったBDPスタッフの皆様、そしてACEFメンバーの皆様、本当にありがとうございました。

## すべては神様のご計画

国際基督教大学2年 大和由祈

「私はね、みんなが無事でありますようにってひたすら祈っていたのよ」  
和子さんのこの一言に、私はハッとしました。予想だにしていなかった出来事に出くわし、パニックになっていたこの時に、私は神様のことを考えていたのだろうか。神様に祈っていたのだろうか。そう考えたとき、私は祈らずにはいられなかった。そして私は、その日の朝プーバイルで別れたB・Cチームのメンバー、日本で私たちのことを心配してくれている人たちのことを思い出し、彼らのために祈ろうと思った。彼らひとりひとりの無事を願うためには、神様に祈るしかないと思った。

この二週間、私はバングラで本当に多くの子供たち・人たちと出逢った。その出逢いは、たとえ一生に一度の出逢いであったとしても、私に、彼ら一人一人のことを日本に帰っても忘れたくない、たとえ直接的な支援が出来なくとも彼らのために出来ることを探したい、と感じさせる、かけがえのないものであったと思う。

私と紗椰を乗せて、2日間計7時間リキシャをこいでくれたリキシャワラ。私は彼の名前も知らないし、彼と多くの言葉を交わしたわけではないが、不思議なことに彼と私たちの間には確かな信頼関係が築けたような気がした。しかしそんな彼も、実際は履く靴も、着替える服もなく、雨よけにかけられるビニールも破れているような、その日一日を生きるのに精いっぱいな生活をしている。バングラに溢れるほどいるリキシャワラのうちの一人である彼に出来ることなど何もないのかもしれないが、彼との出逢いでさえ私には忘れられないものである。

訪問した学校で出逢った多くの子供たち。私たちが彼らに何かを与えることが出来たのかはまだ分からないが、彼らの学ぶ姿から私が得るものは多くあった。彼らは、私たちにはとても素敵な笑顔を見せてくれるし、とても楽しそうに勉強しているように見えるが、働きながら学校に通っている子供も多いし、家庭の事情で学校を辞めなければならない状況に追い込まれてしまう子供もいるのが実情である。でも、だからこそ、彼らは今その瞬間を、必死に勉強する時間に充て、教師たちもそれに応えようと熱心に教えているのだろうと思った。すべてのことを当たり前と思わない、今を大切に生きる、彼らの学ぶ姿・教える姿からはそれを感じた。また、彼らと出逢ったことで、日本に帰って支援をするというときの、支援する対象というものが見えてきた気がする。今まではよく見えていなかった、私たちの支援を必要としている人、それがバングラで出逢った子供たちであり教師たちであったのだと思う。

この2週間は、「楽しい」とか「素敵」とか、そういう一言で片づけられる2週間ではなかった。しかしながら、大きなアクシデントがあったことで、気付けたことも多くあったし、自分自身を見つめなおすきっかけにもなったし、出逢えた人も多くいたし、彼ら一人一人の愛も感じる事が出来たし、出来た経験もたくさんあった。そう思うと、この事故でさえも私の今回のスタディーツアーには欠かすことの出来ない経験であったし、それは私自身の人生にも言えることだと思う。

「すべては神様のご計画」これを心から受け入れることが出来たのは、このスタディーツアーの一番の収穫だ。すべてに感謝して、ドンノバッド！

## 発展ってなんだろう

明星大学4年 菅 悠介

まず、バングラデシュに行って自分の想像以上にこの国が発展していることに驚きました。普通に車の交通量も多くアスファルトで舗装されている道路もあり、高いビルなどもあり、携帯も普及している。これが本当にアジアの最貧国と言われている国なのかと疑問を抱きました。確かに物乞いをする子どもや無秩序状態の車道、そこら中に散らばっているゴミ。そのゴミから出る悪臭など問題は街中を通るだけでいくつも目に付いたがそこまで貧しくないのではないのかと初日は感じました。

都市部での買い物するとき老若男女問わずに物乞いをする人たちがやたらと目に付き日本ではありえない光景だったのでショックでした。しかしその近くできれいな服を着て買い物を楽しんでいる人もいて貧富の差がこんなにもはっきりしていて衝撃的でした。

農村部へ行ったときは車の交通量も少なく物乞いの人達もいない。一面の田んぼや緑、どこまでも続いていそうな一本道の道路や、村の子供たちの笑顔。夜には停電で真っ暗闇にすごく明るい月明かり、満点の星空、無数の蛍。めっちゃのどかあ〜。これだけでもバングラデシュへ行けて良かったと思えました。農村の人たちはとてもフレンドリーで行く先々で仲良くして、一緒に遊んでくれたり、近くを案内してくれたり歌を歌ったりと良い思い出ばかりで逆に農村では悪いところが目に付かなかった気がします。本当に心の豊かな人たちばかりで日本も昔はこんな感じだったのかなあと思えるような国でした。最後のディベートでのぶさんが「心の豊かな人、美しい自然、豊かな環境の土地を見たときに発展ってなんだろう？って疑問が生まれた。」と言っていて自分も分からなくなりました。確かに経済的には貧しいかもしれない。でも毎日充実して生活をしているんじゃないか。でなきゃあんな顔で日本人と一緒に楽しんで笑って接していただけないと思う。確かにずっとバングラデシュで生活してきた訳ではないから内情は良く知らないけど心はとても豊かな国だとは思えた。このツアーに参加出来てバングラデシュと出会えて本当に感謝します。

心のふれ合いを通して。

高崎和子

今回は心に重たい大きな傷を残した旅になってしまいました。私達 A チームはジャマルプールに向かう途中で、大型バスと衝突する、大きな事故にあってしまいました。その時の衝撃と恐ろしさは、メンバー1人1人の心に大きな深い傷を残してしまいました。大惨事なのに誰1人怪我した者もなく、助かった事に心から神に感謝し、祈りました。バングラデシュの場合外国人を乗せて事故を起こした時は、ドライバーは車から降り逃げて、残された外国人は地元の人々にひどい目にあうそうです。私達の車も例外なく村人に囲まれ、汚い言葉をあびせられ、最終的にはお金を払って解放されることになりました。BDPのヘモンドさん オシムさんが命をかけて守って下さった事に心から感謝しています。スタッフが(車を燃やされずに、お金ですんだのだから良かった。)とぽっんと言っていました。メンバーにとっては私達の車は何1つ悪くないのになぜお金を払うのか?理解できないようでした。

その夜のシェアリングで日本では考えられない解決策に皆憤りを隠せなかった。この出来事により 神に祈り 守られた事に感謝し人々の心からのやさしさを感じお互いが思いやりメンバーの気持ちが1つになれた事が1番良かったと思い起こします。またBDPスタッフも心1つにして私達に接して下さり大きな愛をいただきAチームとBDPスタッフは心1つにして、楽しい事も つらいことも共に分かち合い過ごした1週間はとても充実した、学びの多い生活になりました。ACEFとBDPの関係は共に働くコワーカーですが、その前に心と心のつながりがあり、友情が芽生えBDPスタッフは限りない愛をもって共に歩んでいく下さる事を強く感じ心から感謝する事が出来ました。

皆一生消える事のない大きな傷を負いましたが、神の愛をBDPの愛をメンバーの愛を 多くの人達の愛を 心と心のふれ合いの素晴らしさを 本当に素敵な仲間に出会えた旅になりました。メンバー1人1人の心にこの経験が大きな宝物になりますように祈ります。私の心に又1つ宝物が増えました。皆さん本当に有難う。いつまでも忘れないで下さい。ジャマルプールのひと時が目に浮かびます。

ドンノバット ドンノバト ドンノバット ドンノバット ドンノバトみなさんドンノバット

新約聖書はもともとギリシア語で書かれたのだそうです。ですから、新約聖書の解き明かしでは、聖書にギリシア語のどのような言葉が使われていて、その言葉はもともとどういう意味であるか、という説明がなされるのがよくあります。

いつどこで聞いたか忘れてしまいましたが、ぼくの心に残っているギリシア語の言葉に「スプラクニゾマイ」というものがあります。内臓、はらわたを意味する「スプラクナ」という語の派生語で、「はらわたを引っかき回され、引きちぎられるような痛み、苦しみを覚える」、という意味だそうです。すごく痛そうです。聞いただけではらわたが痛みます。

この言葉がどこに使われているかという、たとえば、有名な善きサマリア人の譬えです。追いはぎに襲われて半殺しの目にあい、道に倒れている人がいました。同胞人の祭司もレビ人も彼を無視して通り過ぎましたが、旅のサマリア人は彼のことを「気の毒に思」った(口語訳)あるいは「憐れに思」った(新共同訳)というのです。この、「気の毒に思」た」「憐れに思」た」と訳されている言葉が、原語ギリシア語ではスプラクニゾマイです。半殺しの目にあわされ倒れている人を見て、自分自身が、はらわたが引きちぎられるような痛みを覚える。そのような経験の結果として、倒れた人を助けた旅のサマリア人を通して「自分を愛するように、あなたの隣り人を愛せよ」(ルカ 10:27)と、イエスは教えられました。

さて、世の中の仕組みには、おかしなところが沢山あるとぼくは思っています。そして、人間が作ったおかしな仕組みは、人間の力で変えていかなければならないと考えています。

おかしな仕組みのために自分が直接の被害を受けているとしたら、まずその被害を軽減させようとしなければならぬし、さらには、おかしな仕組みそのものを変えなければいけない、そう思い至ることは比較的簡単なものかもしれません。しかし、おかしな仕組みのために自分が恩恵を受けているとしたら、加害者の側におかれているとしたら、おかしな仕組みに気付いたり、それを変えなければいけないと思いつくことはより難しく、また、思い至ったとしても、仕組みを変えようと実際に行動するのは、とても大変で勇気がいることなのかもしれません。

ぼくたちが生きているこの社会のおかしな仕組みの中で、弱い被害者の立場に置かれてしまっている人たちも、逆に仕組みの恩恵を受けている人たちや強い立場の人たちも、どちらもこの社会や仕組みの当事者であることには変わりはない。そうであるならば、おかしな仕組みを変えて弱い立場の人を助けようとする行いも、弱い立場の人が自分を守ろうとする行いも、どちらも、結局は同じことなのではないか。おかしな仕組みを変えることができれば、結局はみな自分が自分自身を助けるために行動したことになるのだから。

そんなことを考えた 2008 年夏のスタディツアーでした。

## スタディーツアーに参加して

薊千夏

飛行機から降りたそこはバングラデシュ。見知らぬ土地へのドキドキ感と不安、自分が苦手とする団体行動への少しの不安もかかえ、私はバングラデシュへと入国した。今回私がこのスタディーツアーへ参加した理由は、将来国際関係の仕事に就きたいと思っており、アジアの中でも最貧国といわれるバングラへ行き、直接自分の目でどのような状態であるのかを知りたいから、というものでした。

しかし、実際バングラへ行き、多くの現地の人と出会うことで、本当に最貧国といわれる地で暮らす人々なのだろうか、と思いました。それくらい大人から小さい子供、ひとりひとりの目が輝いていました。

私は今回Bチームに所属し、ネトロコナへ行きました。そこの人々の目やはり本当にきれいでとても印象的です。子どもたちは毎日学校へ行くの楽しみにし、ちょっとしたことでもとてもうれしそうに笑ってくれます。そんな人々を見て、バングラには日本のように豊かな国にはないものが沢山あると思いました。豊かになったからといって、はたして本当に幸せなのでしょうか？豊かさだけが幸せにつながるのではないのだ、と私は知りました。それと同時に何気ない小さなことでもとても幸せを感じるバングラの人々に対し少しうらやましいとすら感じてしまいました。

今回、2週間という短い期間ではありましたが私は、多くの人々と出会い、そしてみんなと協力し、たくさんのことを学び、考え、楽しむことができました。

神様がくださった、今回バングラへと行くこの機会。私の人生にとって、すごく意味をもつものとなったと思います。

また何年か後にバングラへ行って、今回とは違う視点からもっとバングラのことを知りたいと思います。

今回のスタディーツアーに参加した皆さん、BDP、ACEFのみなさん、そのほかにも多くの方々、本当にありがとうございました！

## バングラデシュを振り返って

水内 健太郎

僕は、バングラデシュに行く前は興味と不安とが心の中で葛藤していた。生活面の不安や、最貧国はどういう国なのだろうか？という今までには味わった事のない感情など。出発日もかなり緊張していた。バングラに着いたのは深夜2時で、宿舎に向かう時に、車に乗り込む際衝撃的な事が起きる！6歳ぐらいの男の子、しかも裸足、その子が僕達に近寄ってきた。そして、小さな手を差延べてきた。お金や物資を物乞いしていたのだった。しかし、何も渡す物は無く、現地のスタッフにも渡さないようにと忠告を受けていたのですぐに出発した。もし渡してしまうと、「僕にも！」と、人が集まってくるので混乱を避けるためであった。何もできない自分に心が痛んだのを覚えている。

今回の目的は、BDPが建てた寺子屋の訪問がメイン。初めと終わりの三日間を全員で過ごし、中一週間を3つのグループに別れて、それぞれの村で学校訪問や交流を深める、という日程だ。僕のグループは、ネトロコナ村に行った。寺子屋に5校行った印象としては、寺子屋にいる子供達は学習意欲がものすごくあり、目が輝いており、勉強が楽しくてたまらないのだろうと感じた。日本の子供にとって、「楽しみ」と「生きる事」は、別の事であると思うが、バングラの子供にとって、「楽しみ=当たり前の日々の生活」であると感じた。寺子屋に行くこと、働くこと、家を手伝う事、全てが「楽しみ」なのだ。先生はほとんどが女性で、女性の社会進出発展の為に先生は女性が務めるのだ。若い先生が多かった。18歳、20歳、22歳等。しかし、首都ダッカでは、女性はあまり見られなかったのでまだまだ女性の為の努力が求められている。また寺子屋では、読み書きの他に国の発展の為の希望を育てていると感じた。教え子たちがやがて母国発展の為に貢献してくれるように、と。寺子屋には、「国の希望がある」と感じた。

村の印象は、景色がとてつもない程絶景であり、全く人間の手が加えられていない本来の自然の姿が見られたことある。また、宿舎の前に大きな池がありそこで獲った魚や鶏を食べた。特に魚の解体作業を手伝い、また鶏を殺す光景を目の当たりにし、日本では無意識にされがちな「我々は日々命を頂いている」現実を改めて意識する事ができた。現地の村人とも、とても交流を深める事が出来た。最後に、この28人でツアーが出来た事、様々な新しい出会いに恵まれた事、新たに人生観が芽生えた事、この旅で得た全ての事に感謝である。ありがとうございました。

## 気づかされたこと

山本 美紗

私は今回バングラデシュに行く前に、去年の夏にサイクロンがあり、とても大きな被害を受けていることや、経済的にも豊かではなく最貧国の一つであることなどを知っていたのでマイナスのイメージを持っていました。

そして私はその人達のために何か出来ることはないかと考えました。

実際行ってみると、バングラデシュの人達は子供も大人も笑顔が素敵でそしてキラキラと輝いていました。私はその笑顔にとっても癒され、私も自然と笑顔になりました。行く前に持っていたイメージとは違って逆に私が勇気づけてもらった気がします。

子供たちの授業を見せてもらいましたが、皆授業に集中し、積極的に手を挙げ発言していました。何事に対しても前向きで向上心を持っていました。その姿を見て自分自身について考える良い機会になりました。

確かに日本と比べれば経済力も低く貧しい国です。しかし、バングラデシュの人達はその分コミュニケーション力が豊かでなんととっても心が豊かだと気づきました。日本は経済力が豊かで手に入りたいものがあればすぐに手に入れることが出来ます。

バングラデシュの空港や様々なところで物乞いの人達を見ました。その人達は私達に手を差し伸べ求めてきました。私はその人達の為に何もすることが出来ませんでした。その時礼拝担当であった箇所を思い出しました。求めなさい。そうすれば与えられるであろう。(マタイによる福音書6章7節～11節)その光景をみてなぜその人達は求めているのに与えられないのだろうかという疑問に思いました。しかし、バングラデシュで二週間過ごし、たくさんの人達と出会って分かったのです。神様は一人一人を見てくださり、その人に必要なものを与えてくださるのです。

今回スタディーツアーに参加し自分を見つめる良い機会となりました。文化の違いも肌で感じる事ができ、私たちは同じ人間ということも改めて感じました。特に感じたことはバングラデシュの人達は明るい未来を信じて前に進んでいるということです。

今回経験し感じたことを周りの人に伝え、そして自分のこれからの道に活かしていきたいと思いました。

## バングラデシュシック

大山 美菜

成田から出る大型バスで我が家へと向かう道中は、当然ながら、バングラデシュとは程遠い景色だった。超高層ビルが森のように立ち並び輝く夜景、土の見えない道路、そして空調のきいた車内。ああ、帰ってきてしまった。ここは東京なのだ。私は今ホームシックならぬ、バングラデシュシックだ。

出発前、知り合いに「夏休みに経験できるものの中で最高のものになると思いますよ」と言われていた。本当にその通りだった。スタディーツアーでは、BDP のスタッフの方をはじめ、かなり気を使ってくださっていたのでバングラデシュの現実の全てを知ることは当然できなかった。が、その一部を肌で感じることはできた。実際心が痛むような場面には何回か遭遇した。しかし、それ以上に子供たちの笑顔がすばらしかった。「子供ってこんなにかわいいものだったっけ？」とすら思った。皆、純粹で好奇心にあふれてキラキラと輝く瞳を持っていて、恥ずかしそうにしている子もいれば、率先して私に話しかけてくる子もいた。全ての子が本当にかわいらしかった。そして圧倒されたのが授業への熱意。反復練習にあきもせず、どの子も大きな声で先生のあとに続いていた。勉強できる喜びを態度で示しているかのようなようだった。そして人懐っこい。なんだか日本での冷やかな人間関係に疲れてしまっていた私は、ほっと心を温められたような気がした。

もうひとつ、大事なことを肌で感じた。言葉の壁の問題である。私はベンガル語を話せない。でも、ちょっぴり心を通わせることができた。特に地方へ行ったときに食事の世話をしてくれた女性二人は私のことをかわいがってくれた。ベンガル語で何言っているのかさっぱり分からないときもあったけれど、それでも仲良しだった。そこで実感したのだ。言葉や肌の色や宗教や生まれた国はただの表面的な違いでしかないのだと。

バングラデシュの人は逞しく、凛凛しく、まぶしく、そして美しい。誰もが人生にドラマを持っているのだと気づかされた。なぜなら皆、熱く生きているから。そんな姿を見て、また Albert 氏からの質問も受け、自分自身について何も知らないことを知った。私は今まで何をしてきて何を考えていたのだろうと。

私に残された課題は多い。自分を見つめなおす過程では常にバングラデシュが必要だろう。私はしばらく、いやこのままずっとバングラデシュシックであり続けたいと思う。

全ての子供が教育の機会を与えられ、幸せに暮らすことができることを願って。

2008年8月28日

# ドン/バット

君島小春

私が、ご飯をお腹いっぱい食べている一方で、お腹を空かせた人がいる。私が、呑気に学校へ行き、友達と遊んでいる一方で、学校にも行けない子供達がいる。

日本にいても分かることだけれど、バングラでは、常にそのことを思わされました。

何かできるとは、思っていないけれど、行ってどうするのか、私は、どんなふうに、貧しい人達や、物乞いをする人達から思われるだろうかと、行く目的を見出せずにいましたが、いましてチャンスはありますかもしないという状況と、きっと自分にプラスになるだろうという言い聞かせだけで参加しました。

そして実際にバングラデシュを体験すると、この現状、子供達の環境は、どうにかならないものかと考えずにはおられませんでした。しかし、答えもせず、さらに、思いもよらず、大歓迎してくれる子供達に、(なぜ!?)と、戸惑い、子供達の笑顔にも素直に応えられないでいました。

そんな時、アルパートさんに、「あなたの姿を見せる事に意味がある。あなたは、彼らに刺激を与える事になる。あなた一人で、全員を助ける事は出来ませんが、1人なら出来る。」そう言われ、心から、来てよかったと思いました。それから、子供達に戸惑うこともなかったし、積極的に話かけることもできました。

そしてフーバイルや、ネトロコナでお世話になったBDPのスタッフの方々や、毎食おいしい食事を作ってくれた方々、家に招いてくれた村の人々、近寄ってきてくれた子供たちと接して思った事は、環境が変化しても、素直であること、思いやること、感謝することを忘れたくない、という事です。

発展や、豊かさとは何だろう。人によって基準や、価値観は、違うから、何が良くて悪いのか、時によって、正しいということは、変化するから、何が、正しいのか分からないけれど、それだけは、大切にしようと思いました。

それから、勉強できることに感謝し、彼らを忘れず、バングラを多くの人に伝えながら、これからも、アンテナを張り続け、生活していこうと思います。

そしてまた、必ず、バングラへ行きたいです。

皆さん、本当に、どうもありがとうございました。

「多くの人との出会いを通して。」

国際基督教大学2年 長澤ルツ子

バングラデシュでの2週間はいろんな人と出会い、多くのことを経験し感じた、充実したものでした。おいしいカレーとチャー、井戸での水浴び、辺り一面に広がる田んぼ、美しい夕日、変わりやすい天気、リキシャを一生懸命漕ぐおじさん、一緒に遊んだ子供たち、優しいBDPのスタッフの方々、快くお家に招いてくださった方々……今でも鮮明にバングラでの生活や豊かな自然、そしてそこで出会った多くのたちのことが頭に浮かびます。行く前は漠然としたイメージしかなく、少し遠い存在であったバングラデシュ。今ではとても身近な大好きな国となりました。

とりわけ強く心に残っているのは、子供たちの愛くるしい笑顔とひたむきに勉強する姿、そしてバングラの人の温かさです。この2週間、多くの子供たちと出会い一緒にたくさん遊びました。その中で、彼らのくったくのない笑顔には人を癒す不思議な力があるように感じられました。子供たちと一緒にいると自然に笑顔になって優しい気持ちでいる自分がいるのです。子供たちの無条件で相手を受け入れるその広い心が人の心を溶かし温かくしているのだと思いました。また、今回多くの学校を訪問し授業を見させてもらいましたが、どの子供たちにも共通して言えるのは、目をキラキラさせながら勉強に取り組んでいるということでした。子供たちは一生懸命先生の話聞き、先生が質問をするとみんな一斉に手をあげ、元気良く答えます。授業に参加している子供たちはみんな生き生きしているように見えました。そんな心豊かで一生懸命に何事も頑張る子供たち……そんな子供たちのことをこれからずっと忘れないで想っていたいし、応援していきたいです。そしてなにより、バングラでは人と接する中で多くの温かさと感じました。相手を想う気持ち、人をもてなす喜び、感謝する気持ち……この国には生きて行く上でとても大切なものが溢れていました。私はこれらの大切なものを日々時間に追われ忙しい毎日で失いかけていたように思います。私もバングラの人たちのように心にゆとりを持ち、いつも感謝することや相手を思いやる気持ちを常に心がけていきたいと思われました。

このように、多くの人との出会いを通して、多くのことを学ばせてもらったし、大切なことにも気づかされました。また、この温かさと感じました。けれど、現実的にまだ問題があるということも忘れないでおきたいです。貧富の差があり、物乞いをする人たちもいます。また、学校に通える子供たちは増えているものの、まだ卒業まで学校に通えない子供や学校に行くことのできない子供たちもいます。そのことを忘れないで、バングラの問題と向き合っていく必要があると思われました。まだはっきりとは分からないけれど、私には具体的に何が出来るのか知るかこれから先問い続けていきたいです。そして、バングラの人のことを覚えて日々祈っていきたく思います。まずは、自分がバングラに行って感じたことを多くの人に伝え、バングラのことについて知ってもらいたいなと願っています。

最後に、ACEF・BDPのスタッフの方々を始め、一緒にスタディーツアーに参加したメンバー、そしてバングラで出会った人たちに感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。また、バングラへ行きたいです！

## ババババングラ★ドゥンノバット★

明治学院大学2年 目黒元子

初めて訪れたバングラデシュ。本当は、食生活も、生活環境も、ことばも、大きく異なるバングラで私は生活していけるのだろうか…と不安がありました。しかし、そんな心配をしていたことが考えられないくらいバングラで過ごした2週間はあっという間で、私にとって大切なときとなりました。

私はこのスタディーツアーを通して教えられたことが大きく2つあります。そのひとつは、神さまの大きさです。バングラのクリスチャン人口は0.4%しかいません。しかし、バングラでも確かに神さまは誉めたたえられていて、そのような人と共に賛美し祈ることができたことによって、私の信じている神さまは本当に偉大であり、世界中で誉めたたえられているということを身をもって教えられました。

ふたつめは、バングラの人たちに私たちの生活を押し付ける必要はないということです。私たちにとっては当たり前で電気があり、履く靴があり、水道があり、シャワーがあります。しかし、それらが無いから必ずしも与えられるようにしなければならないというわけではないと思うのです。彼らには彼らの生活があり、私たちには私たちの生活の仕方があるのです。むしろそれを押し付けることによって、彼らの生活を混乱させ、むしろ貧しさを引き起こしている一面もあると思うのです。グローバル化の影響もあるのかもしれませんが。もちろん、今の現実をみて必要な助けもあると思いますが。だから、「発展途上国」ということばも、「先進国」ということばもなく、ひとつひとつの国は国であり、比べる必要もないのではないかと思います。

また、このスタディーツアーを通してステキな出会いがいっぱいありました!!! 一緒に行った個性豊かなメンバーひとりひとりと、やさしくおユニークなBDPのスタッフと、バングラの人たち、まっすぐで純で私の汚さも子ども輝きによって照らされるほどにキラキラしている子どもたちと…。ひとりひとりと出会えたこと、私にとって大切な宝です☆ありがとう。

「バングラデシュってどんなとこなの？」「危なくないの？」

「え〜っと…インドの近く…？」「危ない国ではないみたいよ〜」

私がスタディーツアーでバングラデシュに行くことを家族や友人に話すと、いつもこう聞かれました。そして私は、こんななんとも浅い答えしか出てこず、「ほとんど何も知らない土地なのに本当に行けるのかしら…？」と不安すら感じました。しかし、そんな私でも目的があってツアーへの参加を希望したわけですから、それを自分に言い聞かせながら出発当日を迎えたわけです。

私がツアーに興味を持った理由の1つはといいますと、他国で起こる貧困や紛争・災害などの多くの問題が、テレビや新聞で取り沙汰される度に「日本に住んでいて良かったあ」と思うてしまう自分への、「それでいいの!？」という問題提起からでした。「自分の住む世界を広げたい…」そう思ったのです。

でも、この2週間で一体バングラデシュの何を知ることができたか？（もちろん出発前の私に比べれば知識はずいぶん増えたわけですが…）どうやら私はいいところしか見ていなかったようです。たくさんの大きな問題を抱える国で2週間という時間を過ごしながら、きちんとその問題と対峙することができませんでした。

「楽しかった」「素敵な国だった」今回のツアーはバングラデシュとの出会いだったわけですから、まあそれでよしとしましょう。ただ、これからの私のテーマは、日本にいながらどのようにバングラデシュの現実と向き合い、それを受け止めていくか。このツアーで得られたものをどのように自分の中で持続させていくのか…です。

バングラデシュで、たくさん子どもたちに出会いました。みんな笑顔が本当に素敵！幼稚園の年長組も見ました。私が今担任しているのも年長組です。初めて会う日本人の私に、興味と好奇心と、少しの警戒心…笑顔で1人ひとりとゆっく〜り名前を教えあいながら、少しずつ距離を縮める戦法に出ました。折り紙なんかも使って交流を深めていくうちに、徐々に笑顔になっていく子どもたち。私の受け持つクラスの子どもたちを思い出しました。子どもって、国が違ってもやっぱり同じなんですね。もちろんとりまく環境も、抱えている問題も違うのでしょうけれど、彼らの持つパワーは、笑顔は同じだったのです。きっと日本にいても子どもたちの笑顔が、私とバングラデシュとを繋げていてくれるのではないかなって思います。

ツアーは終わって日本に帰ってきたわけですが、私とバングラデシュとの友好関係（ごくごく個人的・一方的な!）はここからがスタートだと思っています。バングラデシュ、これからよろしく!!

このツアーをキラキラ輝くものにしてくれたのは、バングラデシュで出会った全ての人たち、それからツアーのメンバー。感謝でいっぱいです。みんなに会えてよかった!!

そして、こんな素晴らしい機会を私に与えて下さった神様、本当にありがとう…私たちがこの経験を通して、あなたの御心にかなう行いができるよう導いて下さい。BDPとACEFの今後より一層の発展をお祈りして…

## 心の中のスペース

井上儀子

カティラでの1週間を終えプーバイルに戻って来た時、他チームとの再会に私は元気いっぱい喜びを表しているつもりでした。ところが翌日の朝、プーバイルのスタッフに、「昨日は具合が悪そうだったね。」と尋ねられたのです。実はカティラでの最終日から調子が悪く、頭痛薬を飲んで紛らしていました。そんなこと誰も気づいていないと思っていたのに…。「8年も10年もの付き合いだから、ちょっと見ればすぐにわかるよ。」と言ってくださり、私は胸が熱くなりました。

翌日、別のスタッフから質問されました。「バングラデシュで一番良いものは何だと思いますか？」私は迷うことなく「ベンガル人の豊かな心」と答えました。日本人はいつも自分のことで頭がいっぱいで、忙しい忙しいと、他者のことを配慮する心の余裕が少ないように思います。前日の例を話し、ベンガル人は心の中に、他者のことを思いやるスペースをちゃんと空けていて、いつも隣人のことを気にかけているように思うと話しました。一緒に話していたスタッフはみな私の言葉に同意して、さらに付け加えられました。「私たちは、自分のまわりの人の家族構成はもちろん、誰がどんなことをしていて、どんなことで問題を抱えているかすべて知っていて、みんな大きな家族のようなのです。」その誇らしげに語る様子に、少し羨ましくも思いました。気にかけてくださる人が、まわりにたくさんいるということは、何と幸せなことなのでしょう。

朝夕の祈りの時間に、あるメンバーがマタイによる福音書の「思い悩むな」という箇所をお話してくださいました。何度も聞いているこのみ言葉にまた新鮮な響きをもって教えられました。「思い悩むことが問題なのではなく、思い悩み過ぎることで、神さまのことを思う余裕、スペースがなくなる。」とお話してくださいました。私たちの心は自分のことでいっぱい、神さまのことも、他者のことも考える余裕がないのです。

その時、マザー・テレサの言葉を思い出しました。「自分のことばかり思い悩みすぎると、他者のことを思う時間がありませんよ。」

私たちの小さな心の中はスペースが限られています。何を優先するのかよく考え、神さまのこと、隣人のことを思うスペースを空けておきたいと願いました。

## スタディーツアーに参加して

山梨英和高校 新田 愛菜

今回バングラデシュを訪問して、一番印象に残っているのは子ども達の一生懸命に、学ぶ姿勢です。今までの自分は「何のために学校へ行くのだろうか?」「何のために勉強するのだろうか?」「勉強することに意味があるのだろうか?」などと思い授業を真面目に、受けずにいたことがありました。そして儀子さんが生徒に「宝ものは何ですか?」と質問したら、生徒全員が「教育」と答えたという話を聞いて、今まで授業を無駄にしていた自分を恥ずかしく思いました。与えられた学ぶチャンスを何も考えずに、無駄にしていたことを本当に後悔しています。これからは進路を考える上でも、この子ども達のことを忘れずに一生懸命勉強していこうと思いました。また、子ども達の笑顔を支えているBDPとACEFの素晴らしい活動に少しでも協力していきたいです。

BDPスタッフの心温まるもてなし、子ども達の純粋な笑顔、素晴らしい自然、そしてカレーやフルーツの美味しさも強く心に残っています。

最後に今回のスタディーツアーのメンバー、現地で出会った人々、全ての出会いに感謝したいです。そして、両親やこのツアーに導いてくださった学校の先生方にも心より感謝したいです。

## 行ってみないと分からないこと

共愛学園高校2年 清水 理沙

スタディーツアーに行く前、少し申し込んだことに後悔しました。衛生面もそうだし、環境に耐えられるか心配だったからです。けど、行ってみたら心配していたことなんて全く気にならなく本当に素敵なきを過ごせた気がします。

空港で最初に物乞いの子供を見たときは、「何でこんな国に来ちゃったんだろう」と思いましたが、またこれが現状なんだなと実感しました。今もその子供の顔が忘れられません。

1番印象に残っているのがカティラで過ごした1週間です。BDPのスタッフの方々とも仲良くなれたし、子供達ともたくさん遊べてよかったです。子供達は日本の子供と同じようにとても元気で、なんといっても力がめちゃくちゃ強かったです。腕相撲は、幼稚園の子に1回勝っただけ。学校に行くところの学校も歓迎してくれお花をくれてうれしかったです。授業中の子供の目は、キラキラしていて日本とは違うなと思いました。日本だと学校に行くのが、「当たり前」になっているけれどここでは、学校に行くことは「特別」なんだと学校をまわりながら感じました。先生方も授業を工夫していて、日本の授業と違って私的に、「バングラデシュの授業のほうがいいな」と思いました。

今まで私の中でのバングラデシュの印象は、「貧困」とか「汚い」というイメージでしたが、今回実際に行ってみてそんなイメージをもっていた自分が恥ずかしいと思うほど本当に自然豊かだし、人々は素敵な人ばかりで「実際に自分の目で確かめないで決めつけちゃ駄目だな。日本のように物質的に豊かでないけど、心の豊かさはバングラデシュの人のほうがはるかに豊かだな」と強く感じさせられました。それと同時に「少しでも多くの人にバングラデシュの素晴らしさを知ってもらいたい」と思いました。今は、自分がどうしたらいいか分からないけど勉強ができるという「幸せ」を大切にしていきたいと思います。そして、大学生になったら、また行って「どんなふうに変わったか」自分の目で見てきたいと思います。今回行って本当によかったなと思います。

最後に支えて下さったすべての方々とメンバーのみなさんに心から感謝しています。ありがとうございました。

## アバルデカホベ！！

藤井ハンナ

2008年8月7日・・・バン格拉テシュにしゅっぱーつ！！  
参加者の人数28名、全員何事もなく出発することができた！自分は  
二年前から小学校の時の担任「やまじゅん」から誘われていて三年目  
にしてやっと参加できた。他に二人家族同然の同級生「美穂」と「健  
太郎」と参加！28名を3チームにわけ、自分はCチームになった！  
メンバーはのり子さん、峯さん、江間氏、のぶさん、まき姉、あゆみ  
さん、セイラさん、はげお、りさそして自分の10名！とても穏やかで  
最高のチームだった！バン格拉テシュに着いて一番最初に感じた事  
は・・・「あ、あ、暑い！！」だった。笑 まず湿気にびっくり！そし  
て着いてすぐに物乞いに出会う。とても心が痛かった。農村に行く高  
速バスの中でも沢山の物乞いの人々に出会った。今でも顔を忘れられ  
ないくらい焼き付いている・・・最初の三日間は28人の共同生活！！  
他の参加者の人達との仲を深めることに大成功！周りは大学生ばかり  
だし生活している場所はバン格拉テシュ、両方にかなり刺激されなが  
ら旅は続いた。カレーもおいしすぎた！Cチームの向かう先はポリシ  
ャール県のカティラという場所。そこでの一週間はまるで未だかつて  
味わったことのない時間だった。現地のBDPスタッフ、そして子供  
たちが本当に素晴らしかった！神様が自分をここに導いてくれたんだ  
と確信した。メンバーとの一時もスタッフとの一時も子供たちとの一  
時も全部がぜんぶ濃すぎて時々すべてが恋しくなる。自分が今回この  
ツアーに参加した事も、メンバーが皆だったことも行った場所がカテ  
ィラだったのも神様の計画だったんだなと今はっきり言える！すべて  
を神様に感謝したい！！そして自分史に太字で載るくらい大きな出来  
事になった！メンバーみんなが大好きです！バン格拉テシュが大好き  
です！あとバン格拉テシュの子どもたち！また会おうではないか！！  
本当にありがとうございました！！

## 目に見える貧富の差

聖母大学1年 上原あゆみ

バングラデシュから帰国して1週間が経過した。出来上がった写真を眺めていると、バングラデシュでのいろんな出来事を思い出す。今バングラデシュの人々は何をしているのかな？カティラで出会った子供達は何をしているのだろうか？とたくさんの人々に思いを馳せる。

アールンで買い物をしている時、店員さんを従えていくつもの枕カバーを買い占めている女性を見た。その方は豪華なピアスをつけ、キラキラと光るサリーを着ていて、お金持ちそうなオーラを出していた。しかし一歩外に出てみれば両足を失いスケートボードで移動する青年、私たちに何かをねだろうと必死に追いかけてくる女性、カティラへの移動中に会った何人もの物乞い…物質的に貧しく物乞いをしながら生活をしている人は世界中に多く存在しているだろうけど、バングラデシュのようにこんなにも目に見えて貧富の差がはっきりとしている国は他にあるだろうかと思った。

マザーテレサ祈りの家に訪れたとき、日本の約4割の国土に日本よりも多くの人口、しかもマザーテレサ祈りの家のような施設はバングラデシュではここしかないというのを聞き愕然とした。障害を抱えながら物乞いをしている人々を見るたびに、こういった人々はマザーテレサ祈りの家に行くべき人なのに、なぜもっと施設を増やさないのだろうかと疑問すら抱いた。生活、経済、交通面など挙げればきりがなほどの貧しさを見たけれども、それは目に見える貧しさであり、心の貧しさではなかった。障害を抱えた方でも嬉しい時には本当に嬉しそうな顔をするし、子供達も遊んでいて楽しいときには本当に楽しそうな笑顔を見せてくれる。この国の人々は本当に素直でまっすぐな心を持った人がたくさんいるなあということを感じた。バングラデシュには日本のまねをせず、バングラデシュの良い面をきちんと残して発展していつてもらいたい。

今回のスタディツアーを通して支援とは、単にお金という一過性のものを与えることでも、発展している国が貧しい国に恵みをもたらすことでも、技術的に遅れている国を指導することでもないと思った。ACEFとBDP、そしてスタディツアーのように出会いをもってお互いが寄り深く知ろうと歩み寄る気持ち、互いに足りないところを補い合い、良い部分を伸ばしていくことによって、物質的な面だけでなく、人間の心をより豊かにしていくのだと思う。最後に、今回出会ったすべての人に心から感謝したい。本当にありがとう。ドンノバッド!!!

このツアーは、初体験しかなかったと感ずます。今思い返すと本当楽園にいたんだなと思えます。

すべてが良かった。

ただ、トイレに行った時何となく憂鬱になったりしたのと、カティラにいる間は全ての洗濯物が生乾きの臭いバングラバージョンになってしまつてそれが今でも染み付いているのが気掛かりです。

それらも含めてバングラが愛おしいです。

日本にいる時は化粧・美白・服装・髪とか気を使つていたけど2週間で心からどうでもよくなりなりました。でも撮つた写真の自分見ると「うわぁ…」つて思つたり、日本に帰つて友達に会つたら自分がすごい浮いててびっくりしたり。むこうの女の子は小さい頃から化粧とかアクセサリーとか可愛いなつて感ずました。

ラジオ体操が意外にすごく良かった。

カティラにいる時に真夜中に外で歌つているおじさんについては、ある日、班の子が夜中にそれが原因で目がさめた的なことを言つていて、その日の夜のみんなが寝静まつた頃私は、知つてる人は知つていて「美へそダイエット」を皆に内緒で決行しようとしていたらやっぱり外(部屋のすぐ下)でおじさんが歌い出した!せつかく美へそチャンスなのにみんな起きちゃうつて思つて窓の格子の間からしつて言つたらまじでおじさん黙つちやつたから逆に焦つた。けどまたすぐ歌い出したからそこからまた闘いと葛藤が始まつたのです。

子供達可愛かつたな～何人かはしつかり覚えたし、覚えてもらえたし。小さい頃に味わつた、今じゃなかなか味わえない遊びの楽しさが味わえたり。カティラ良かったな～と今に至るまで毎日思つています。バングラいいな～

バンのドライバーも…ね、…良かったですごく。

宗教的な面について。

私は Christian ではないので賛美歌をほとんど知らなかつたけど、「いつくしみ深い」だけはメロディーを知つて初めてでも歌いやすかつた。小学校の頃の音楽の教科書に載つていた曲で歌詞は違ふけどメロディー同じの曲があつて、たしか三日月系のうさぎ系の何とかがつて曲で、このツアーの間に「あの曲、パクリだつたんだ～」と知ることができました。

礼拝などをいつもしててキリスト教に目覚めそうだつた。思想的に自分もキリスト教つぽくなつてきたなあと思つたり。お話とかいい習慣だなと思つた。

「めぐみの神様」の「今いただく食べ物を主イエスの名によつて感謝します」つていうのを「今いただくごちそうを～主イエスの名～に～お～いて～感謝して～ま～す～ マーメン♪」つて歌つていたけどカティラにいる間にまともに歌えるようになり、それはツアーのメンバーの一員になれたような感ずでとても嬉しかつた。

今通つている短大の宗教行事にも積極的に参加してみようかなと一瞬だけ思いました。

どうでも良いようなことを並べましたが、こういう細かいことをまじまじと思ひ出せるのが、バングラから離れるのが本当に嫌だつた私にとって唯一の救いです。日本に帰つてしまえばそれはそれで順応してしまふもの。

私たちは多くのものを教えてもらひ与えてもらつたと思ひます。

バングラの人々の心の豊かさやほがらかさ、プラスな気持ちの多さに包まれ、逆にこちらが支えられました。

言い換へると、こちら側から何かしてあげようと思ふ時は、物的支援もそうだけど、相手に尽くしてあげたいと思ふ気持ちで、相手を幸せにすることができるとだなと思ひました。

私の今までの短い人生での分岐点は大学受験などではなく、このツアーです。

これからの長い人生はこれに何らかの影響を受けて行くと思ひます。

## 笑顔の素敵なバングラデシュ

鈴木真喜子

バングラデシュはアジアの最貧国ということで勝手に活気のない国というイメージを持ってバングラデシュに訪れました。よくある子供がカメラに群がってみんな笑顔の写真、そんなのもヤラセかなにかとっていました。捻くれていてごめんなさい。

ところが、バングラデシュは本当にとっても素敵な笑顔にあふれている国でした。大人も子供も心からの笑みというものを持っています。

彼らの笑顔に充てられるとこっちまで笑ってしまいます。

バングラに訪れて数日した後、シェアリングで、「なんで自分は笑っているんだろう、本当に楽しくて笑っているんだろうか、それとも、この現状を受け入れることができなくて、逃げるためにとりあえず笑っているんだろうか」と漏らしたことがあります。マザーテレサの施設に訪れた日のことです。私はその光景をまっすぐに見つめることができませんでした。

今、このツアーを終えてみて、笑顔に理由はいらないんだなと思いました。世の中の出来事に対してではなく相手の心にふれて笑う。そんな体験をさせていただきました。

バングラデシュにいたとき、毎日笑っていたので、ふと自分笑うのうまくなったかも。と思うことができました。己惚れですね。でも、みんな日本にいたときよりも格段に笑顔が素敵になった気がしました。

笑顔の伝染。人との触れ合いによって意味なく自然に溢れる笑み、これが原点なんだなと感じました。心で感じたバングラデシュでした。

私はバングラデシュに恋してしまいました。

もちろん日本人として訪れたからというものもあると思います。

時間はかかるとは思います、いつか、日本とバングラのハーフと自称できるくらいになって、それでいてバングラデシュをもっと愛せるようになりたいです。

最後になりましたが、今回お世話になったスタッフ、仲間へ感謝いたします。ありがとうございました。

## ACEF スタディーツアー感想文

深山 信嗣

最初に。すべての ACEF・BDP スタッフの方々に対して感謝の気持ちでいっぱいである。今回のスタディーツアーのために、多くの事前準備をしてもらい、又、現地に着いてからも、参加メンバーがツアーから最大限の価値をそれぞれが見出せるように助けていただいた。はっきり目に見えるかたちだけでなく、見えないかたちでも多く助けられたと思う。ほとんどの場合それらに気づかずに過ごしてしまったに違いないし、又、気づいていたとしても、十分に感謝していなかったもので、ここで、その気持ちを表したい。ありがとうございました。

この感想文を書き始めようとした時、たった2週間しか経っていないにもかかわらず、スタディーツアーでの経験が、日々の生活の中で速度を増して埋もれていっている現実と直面させられた。やまじゅんさんが言った様に、独楽を回し続けることは難しい。

目を閉じると、子供たちの溢れる元気、カティラの自然とゆったりとした時間の流れ、スタッフのやさしさ、ダッカの混沌と人、人、人、ぼこぼこ道に、メンバーと共有した時間と会話、杞憂に終わったカレーにトイレ、朝拝・夕拝を通してふれる神のみ言葉、毎日小学校で歌ったボロボロガチェニチェテと、いろいろ思い出す。中でも特に参加メンバーみんなが持っていた感受性は、日本に帰ってからも素晴らしいと感じてしまう。私なんかは見落としてしまう事や、気づいてもそういうものなのだと思って深く受け止めない事柄でも参加メンバーは、敏感に感じ取り、時に喜怒哀楽し、時に考え、悩み、それをシェアリングの場で分かち合ってくれた。みんなの豊かな感受性とシェアリングのおかげで、密度が更に何倍も濃いツアーになった。

日本にいと、ついつい自分の周りのことで頭がいっぱいになってしまう。それで、ある程度満足している自分もいる。しかし、その生き方が自分の周りの外で起こっていることに対して無関心にさせてしまう。スタディーツアーは、その無関心に風穴をあけるきっかけをくれた。このきっかけをいかすかどうかは、私次第である。これからも多くの人の無関心に風穴をあけるきっかけと、バングラデシュの子供たちに教育の機会を提供していく ACEF の活動が続いていくことを心から願っている。

## 人間っていいな♪

江間紗綾香

日本(函館)に戻ってきて感じたこと

①寒い！！残暑はどこですか？？(函館はすでに秋…)

②食事の種類が多すぎる！(私としては加-だけとか1種類で十分な気がします)

バングラデシュの生活に慣れることよりも、自分の生活スタイルに戻すことの方が大変だったなんて。誰かそこまで教えてくれていたら良かったのに、と原稿を書きながら思っています。

バングラデシュでの2週間。長いようで短い間に、良くも悪くも「人間っていいなあ」と感じる事がたくさんありました。そして日本に帰ってきてからも、「人間って…」という気持ちになっています。

まずはバングラデシュ。とにかく人が優しい。BDPのスタッフは、2週間を楽しんで欲しい、いろいろ吸収して欲しい、体験して欲しい、という気持ちにあふれていました。子供たちも慣れない土地で過ごす日本人を気遣ってくれる。そういうことが当たり前のこととしてできる人々の精神に驚きと心から感謝の気持ちを持ちました。私がもらった温かい心をバングラデシュの人々とはもちろんのこと、日本にいる人たちとも分かち合っていきたい、そう素直に思えることばかりでした。またスタディーツアーに参加した仲間も素敵な人ばかり！小さな社会のようでいて、大きな家族のようで。何とも言えない感覚を味わっていました。そして物乞いの人たち。目の前にくると心が痛みながらも、どうすることもできない私たち。しかし彼らを、特に彼らの目を見てみると、「生きる」ことについて考えさせられました。学校にいる子供達の輝いた目を見ていたせいかもしれません。町や村で生活している人の姿を見ていたせいかもしれません。私だったらこの状態で生きられるのだろうか、それよりも今をきちんと生きているのだろうか、日本にいる時以上に考えました。この問いかけは忘れずに持ち続けたいものです。

次に日本。生徒達も先生方も「おかえり～。楽しかったみたいだね。」と声をかけてくれる。そして「バングラデシュ、どうだった？学校の様子は？」と関心を持ってくれる。日本にいても、優しさを感じて嬉しくなりました。バングラデシュのことを伝えるという形で優しさを返していきたいと思う瞬間でした。写真を見て「子供達がかわいい！」と生徒達の感想。そう感じる生徒達もなまらめんこい(北海道弁で“とてもかわいい”)！それと同時に、言葉の通じる不便さも。反抗期真っ只中の中2と少しだけお話し合い…言葉一つで人間は喜んだり悲しんだりできるんだとつくづく実感しました。中2の子達には言葉よりも気持ちが通じますように、と願うばかりです。まっ、私の反抗期に比べればかわいいもんです。

バングラデシュでしか得られないもの、日本でしか得られないもの、そして両国で得られるもの、得られないもの。それぞれありますが、どちらにいてもやっぱり「人間っていいな」と思うのです。人間は一人では生きられない、多くの人と支えあい、心配しあい、優しさや悲しみを分かち合いながら生活しているのです。分かっているはずなのに、見ようとしないう部分を改めて見つめることができた日々。日本にはない不思議な力に満ちたバングラデシュとそこにいるすべての人々、スタディーツアーに参加したみんながいたからできたことです。2008年の夏に参加できたこと、それを備えて下さった神様に感謝！

## 「バングラデシュ、未来の予感」

共愛学園高等学校教諭 峯岸 伸幸

我が家に帰ってきて最初に感じたこと、「明るい！」でした。壁の白さ、蛍光灯の光、眩しい程に明るく感じられました。

思い返してみると、バングラデシュでの一番の印象は元気な子供たち、そしてスタッフのきめ細かい心配り、その現れである食事。食べ過ぎないように注意しつつ、いつもオーバー気味。おいしかったです。

一緒に参加した高校生、大学生の皆さんとの年齢のギャップも随分感じさせられました。文部省唱歌という古めかしく感じられてしまうでしょうが、私の知っている日本の代表的な歌を、若い人は知らない。これは改めてショックでした。さくらさくら、荒城の月、歌い継がれているものとばかり思っていたのに。

物乞いの人の多いのにも驚かされました。カティラへ向かう途中、フェリーの乗船待ちのバスの中に、入れ替わり立ち替わりやってくる物売りや物乞い。目を合わせないように外を向いていても、顔の前に伸びてくる手。対応しきれない現実は何とも言いようのない気まずさ、無力感を味わったものです。小3のとき、盲目の物乞いの老婆をからかった思い出と重なったりもして。そのうちの一人、歩行が不自由だったはずが、バスを降りるとスタスタ歩くのには失笑。でもフェリーの中にまで幼児をつれた物乞いの女性。バングラの貧しさ、と同時に逞しさの象徴でしょうか。

農村の生活は、物質的にはまだまだ恵まれていません。改良の余地は沢山残されています。それでも豊かな生活、といえるでしょう。都市での生活、貧困からの脱却はできるだけ早く解決されたいものです。

物を大事に使う姿勢も見直しました。切れたチェーンをすぐに修理した自転車屋さん、モーターのコイルの巻きなおしを勉強していた職業訓練校、自動車の修理工場はいたるところにありました。テレビの回路を修理している姿もあり、日本ならどうするのだろう、つい考えました。

化学工場と縫製工場の見学は有意義でした。バングラの未来を明るくする証拠を見た思いです。サイフルさんの工場では、石灰岩から水酸化カルシウム、そしてカーバイドを作っていて、ティッシュや化粧品などの添加剤に使われるとの説明でした。詳しくは分かりませんがカーバイドを色々な炭化水素を作る反応に用いているのかもかもしれません。

BDPによって運営される学校、そこでの様子にはこの国の未来を予想させるものが確かにありました。元気いっぱい勉強する子供たち、指導し支える先生。まだ先のことにはなるでしょうが、一歩ずつ進んで行くのでしょうか。

貴重な2週間の体験、改めて感謝です。



## Bangladesh に寺子屋を贈ろう

教育はすべての協力の基です。会員としてご協力ください。



個人会員 年額1口 5,000円  
団体会員 年額1口 50,000円  
学生会員 年額1口 2,000円  
一時寄付 随時 金額自由  
郵便振替 00100-0-185540

特定非営利活動法人アジアキリスト教教育基金

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18-26

TEL. & FAX. 03-3208-1925

E-mail: acef@acef.or.jp

<http://www.acef.or.jp>